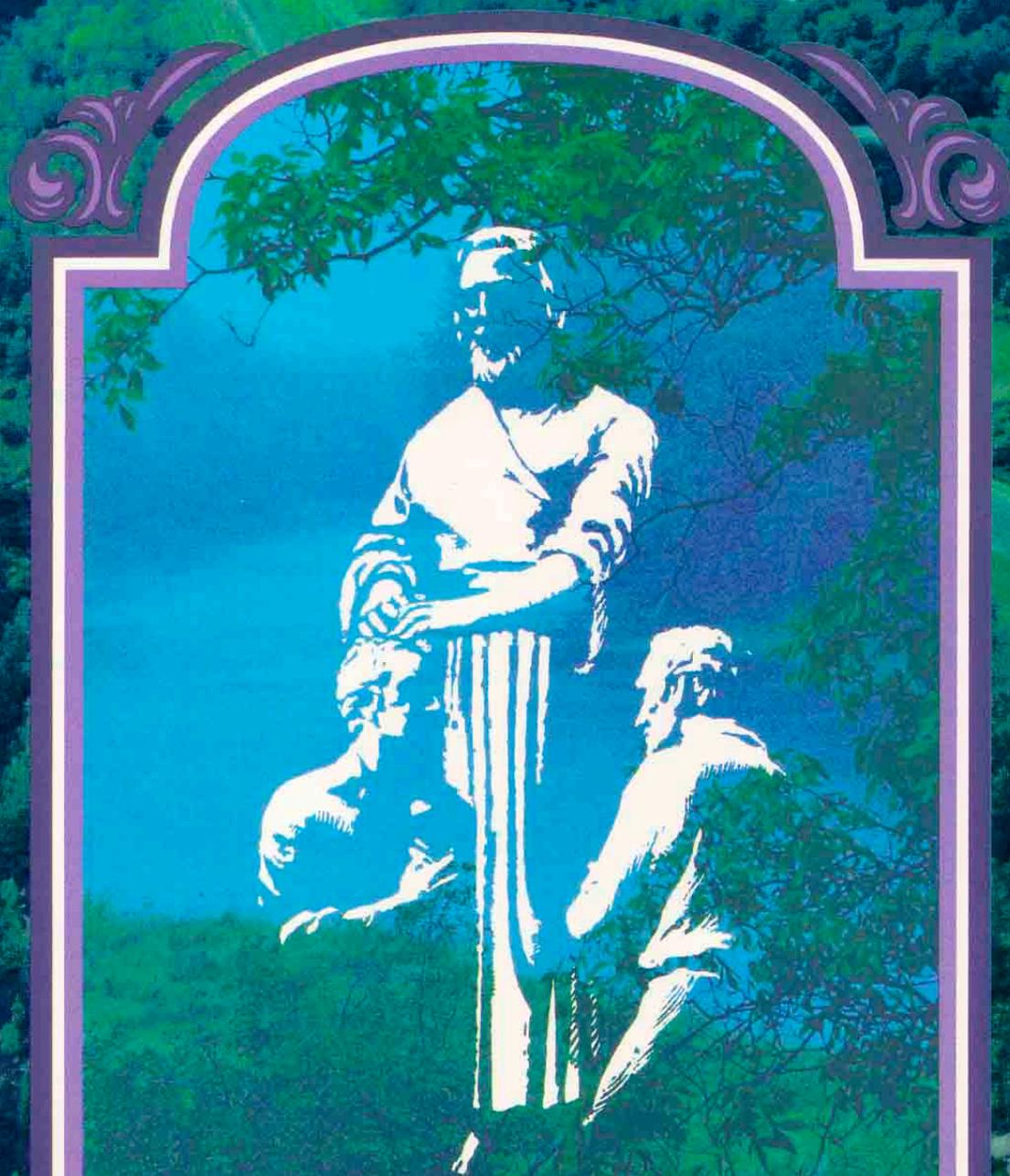


1988
5

聖徒の道

末日聖徒イエス・キリスト教会



汝ら、われと同じ業に働く僕らよ。救世主の御名によりて、われ汝らにアロンの神権を授く。（教義と聖約13章）

聖徒の道

1988年5月号

本書は「エンサイン」「ニューエラ」「フレンド」の記事を抜粋した、末日聖徒イエス・キリスト教会の公式刊行物です。本書は以下の言語で出版されています。月刊—イタリア語、英語、オランダ語、サモア語、スウェーデン語、スペイン語、中国語、韓国語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、フィンランド語、フランス語、ポルトガル語、ノルウェー語。隔月刊—インドネシア語、タイ語、タヒチ語。季刊—アイスランド語。

大管長会：エズラ・タフト・ベンソン、ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン
 十二使徒定員会：マリオン・G・ロムニー、ハワード・W・ハンター、ボイド・K・バックナー、マービン・J・アシュトン、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ジェームズ・E・ファウスト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン
 顧問：ヒュー・W・ピノック、ジーン・R・クック、ウィリアム・R・ブラッドフォード、キース・W・ウィルクソックス
 編集長：ヒュー・W・ピノック
 教会機関誌ディレクター：ロナルド・L・ナイトン
 編集主幹：ラリー・A・ヒラー
 編集副主幹：デビッド・ミッチェル、ジャン・U・ピンボロー
 編集主幹補佐：アン・レムリン
 子供の頁編集：ダイアン・プリングマン
 レイアウト/デザイン：N・ケイ・ステイブソン、シャリ・クック
 制作：レジナルド・J・クリステンセン
 マーケティング・マネージャー：トーマス・L・ピーターソン

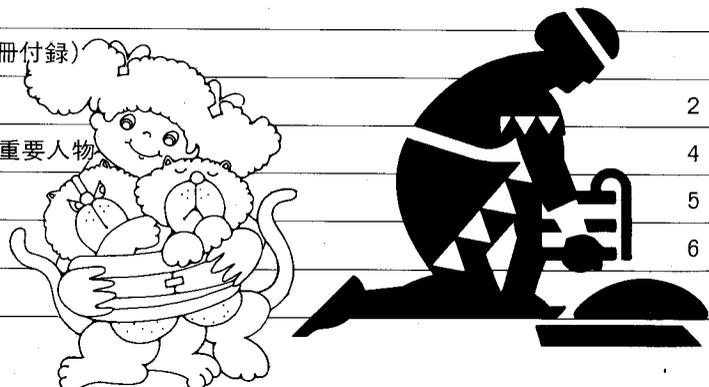
聖徒の道 1988年5月号第32巻第5号
 発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
 〒106東京都港区南麻布5-10-30
 電話 03-440-2351
 印刷所 株式会社 精興社
 定 価 年間予約/海外予約2,200円(送料共)
 半年予約1,100円(送料共)
 普通号150円, 大会号(1, 7月号)350円

International Magazines PBMA8805JA
 Printed in Tokyo, Japan.
 Copyright © 1988 by the Corporation of the President of the Church of Jesus Christ of Latter-day Saints. All rights reserved.
 ●定期購読は、「聖徒の道」予約申し込み用紙でお申し込みになるか、または現金書留か郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/東京0-41512)にて管理本部経理課へご送金いただければ、直接郵送いたします。●「聖徒の道」のお申し込み先…〒106東京都港区南麻布5-10-30管理本部経理課☎03-440-2351(代表) ●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒194東京都町田市小川1704-1/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部配送センター☎0427-96-2820

Published monthly by the Corporation of the President of The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints. Application to mail at second class postage rates is pending at Salt Lake City, Utah. Subscription price \$9.00 a year, \$1.00 per single copy. Thirty days' notice required for change of address. When ordering a change, include address label from a recent issue; changes cannot be made unless both the old address and the new are included. Send subscriptions and queries to Church Magazines, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, Utah 84150, United States of America. Subscription information telephone number 801-531-2947.
 POSTMASTER: Send form 3579 to "Seito no Michi" at 50 East North Temple Street, Salt Lake City, Utah 84150, United States of America.

●——も く じ

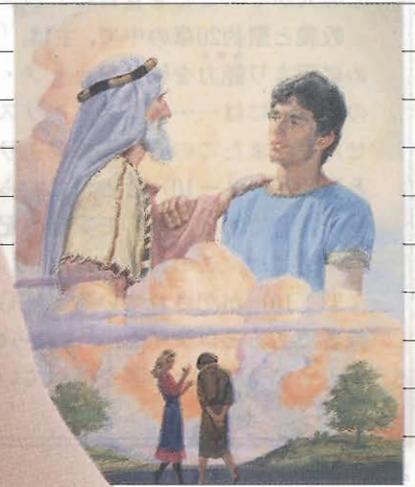
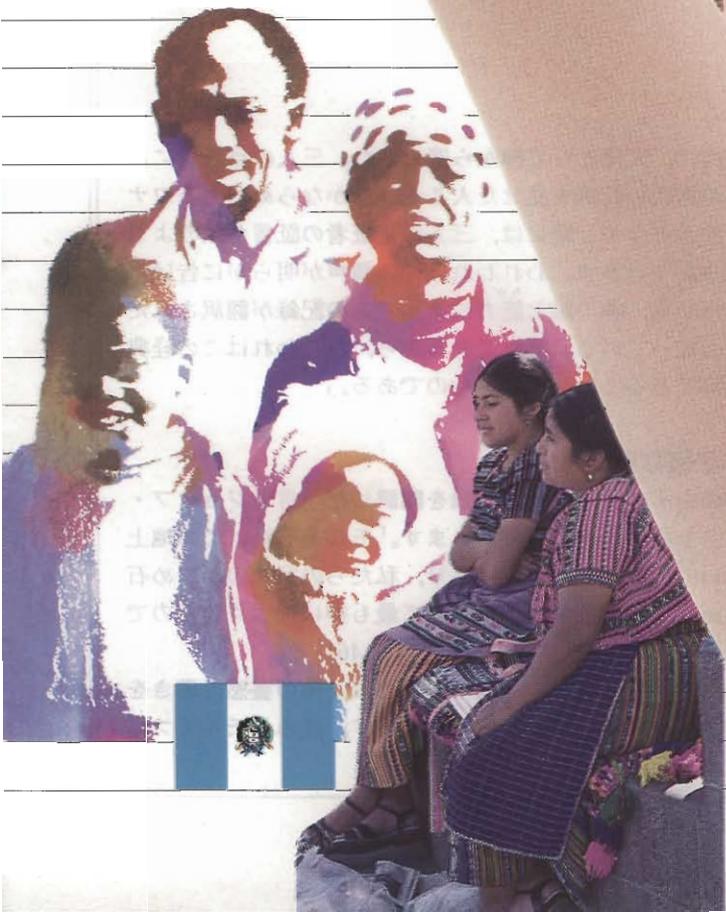
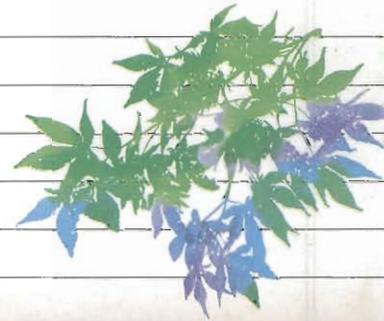
モルモン経は神のみ言葉である	エズラ・タフト・ベンソン	2
モルモン経が与えてくれるもの		
日々の糧	ドゥワン・J・ヤング	8
クイーンズタウンからシマゼーラーへ	E・E・フリー	10
質疑応答		13
リカルド・ペレス	ドン・L・サール	16
デビッド	マリア・ラモス	20
生活の中からの証		
教室を鎮めるみたまが注がれました	ナディヌ・ドイル	22
救い主の計画に喜びを見いだす	ウィルマ・ガードナー	
長き忍耐の時	シャロン・ドゥモルダント	
器の内側を清める		
悔い改めの過程	ラリー・ティベッツ	25
祈りの答え	アーテル・リックス	28
家族で聖典を学ぶ		29
「父よ、何処に」	ジェリー・ブルーイン	32
復活に関するジョセフ・スミスの教え		35
家庭訪問メッセージ		
「愛は高ぶらない、誇らない」		36
——若人のために——		
探求の果てに	キャロル・セイヤーズ・フルウッド	37
時	レアード・ロバーツ	39
「主が方法を備えたもう」	キャロリン・シュナイダー	40
何が、間違っているのだろうか	カール・ハートン	42
幸せはいつも二倍	メルビン・リービット	44
心のすべてを尽くして	マイク・オーステン	48
各地のたより		
子供のページ (別冊付録)		
むすこアルマの改宗		2
モルモン経に登場する重要人物		4
モルモン経		5
げんこつよりも頭		6



お録ぐ子ハチ

よあが葉音大

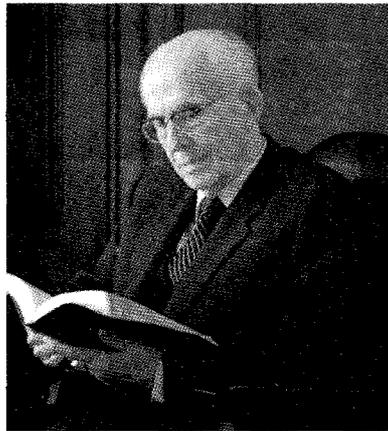
表紙：159年前の5月、ベンシルベ
ニヤ州ハーモニー近くのサスケハナ
河畔でジョセフ・スミスとオリヴァ
・カウドリはバプテスマのヨハネに
よってアロン神権を授けられた。



モルモン経は 神のみ言葉である

大管長

エズラ・タフト・ベンソン



私たち末日聖徒イエス・キリスト教会の会員は、モルモン経を神のみ言葉であると信じています。(信仰簡条第8条参照) それは神ご自身、またモルモン経の記録者、見証者たちも宣言していることです。そしてモルモン経を読んで、真実の書物であるという啓示を神から受けたすべての人がそのことを宣言しています。

教義と聖約20章の中で、主は、「モルモン経を翻訳するために天より能力を彼(ジョセフ・スミス)に与えたり。この書の中には……イエス・キリストの完全なる福音とを載せたり。またこの書は靈感によりて与えられ[る]」(教義と聖約20：8-10)と告げておられます。

予言者であり、モルモン経の記録者のひとりであったニーファイは、この書物には「キリストの言葉」(IIニーファイ33：10)が記されていると証しています。また最後の記録者であるモロナイも、「これらのことが真実である」(モロナイ7：35)との証を述べています。

現代に、天使として神から遣わされ、三人の見証者にこれらの古代の記録を見せた人こそ、ほかならぬこのモロナイです。モルモン経には、三人の見証者の証言が次のように記されています。「われわれは神の御声が明らかに告げられたから、神の賜と能力によってこの記録が翻訳されたことも知っている。それであるから、われわれはこの經典が真実であることが確に解るのである。」

最も正確な書物

神の指示を受けてこの記録を翻訳した予言者ジョセフ・スミスも次のように証しています。「モルモン経はこの地上において最も正確な書物であり、私たちの宗教のかなめ石であって、人がその教えに従って最も神に近づくことのできる書物である。」(「教会歴史」4：461)

モルモン経は現代の私たちのために、神の靈感と導きを受けた人々によって書かれたものです。彼らがモルモン経

を記録したのは、私たちの祝福のためです。この書物は現代に生きる私たちのために備えられたものなのです。

古代の予言者モルモンは、何世紀にもわたって書き留められてきた記録を短くまとめました。そのためこの書物は彼の名にちなんでモルモン経と呼ばれています。初めから終わりに至るすべてのことをご存じの神は、今日の私たちが必要とする事柄をモルモンに告げ、それをその抄録の中に書き入れさせました。やがてモルモンは、最後の記録者である息子モロナイにその記録を託しました。そしてモロナイは、1,500年以上も前に書いたこの記録の中で、今日の私たちに対して次のように述べています。「見よ、私はあなたたちが今目の前にあるかのように話しているが、本当はあなたたちはまだ生れないのである。しかし、イエス・キリストが前以てあなたたちを私に見せたもうたのであなたたちの行いが今私に解るのである。」(モルモン8:35)

ユダヤ人と異邦人に神を信じさせる

モルモン経が世に現わされた目的は、そのとびらのページにあるように、「ユダヤ人と異邦人にイエスは永遠の神なるキリストにましまして、万国の民に現われたもうことを確信させる」ことです。

モルモン経の最初の記録者である予言者ニーファイはこう語っています。

「私が一心に志すところは、すべての人がアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神のところへきて救われることを、かれらに説いて信じさせることである。

それであるから、私は俗世間に喜ばれることを書かないで、神と俗世間の仲間でない者を喜ばせることを書く。

であるから、私は私の子孫に人間にとってねうちのないことでこの版をふさいではならぬと命じよう。」(I ニーファイ6:4-6)

モルモン経はふたつの方法をもって人々をキリストのもとに導いています。そのひとつは、キリストとその福音について率直に告げる方法です。モルモン経はイエス・キリストが神の子であること、また私たちに贖い主が必要であり、主に信頼を置くことが必要であることを証しています。さらにモルモン経は、墮落と贖罪と福音の第一原則についても証しています。その中には、へりくだる心と悔いる精神を持つことと、みたまによって生まれることの必要性も説かれています。また、私たちは正義を守って終わりまで耐え忍び、聖徒として徳高い生活を送らなければならないことも教えています。

偽りの教えを打ち破る

第2は、キリストの敵を明らかにする方法です。モルモン経は偽りの教義を打ち破り、争論を鎮めるものです。(II ニーファイ3:12参照) またそれは、謙遜にキリストに従

う者たちが、今日の悪魔の企てや戦略、その教えに対抗できるような力を与えるものです。モルモン経の中に描かれている背教者のタイプは、今日のそれによく似ています。私たちが誤りを見抜き、今日の誤った教育や政治、宗教、哲学などの概念といかに戦ったらよいかその方法を知ることができるように、神は実に無限の先見の明をもってモルモン経を備えられたのです。

神は私たちに、モルモン経を様々に活用するよう期待しておられます。私たちは祈りの気持ちをもって丹念に読むと同時に、読みながらこの書物が神によって備えられたものか、それとも無学な若者の創作によるものか、深く思い巡らすことが大切です。そしてこの書物に書かれていることを読み終えたら、モロナイが勧めているように、これらの言葉を試してみなければなりません。「またこの記録を受ける時、それが真実なものかどうかをキリストの御名によって永遠の父なる神に問え。もし誠心誠意でその上キリストを信じながら問うならば、神は聖霊の力によってこの記録が確なものであることをあなたたちに示したもうにちがない。」(モロナイ10:4) 私はモロナイの勧めに従ってみました。そのことでみなさんに証したいと思います。この書物は確かに神が備えられたものであり、まことに真実のものであります。

私たちはまた、福音の教えの基としてモルモン経を使わなければなりません。教義と聖約42章で、主は次のように述べておられます。「また当教会の長老、祭司、および教師たちは……完全なる福音を載せたるモルモン経とに誌されたるわが福音の原則を教うべし。」(教義と聖約42:12)

モルモン経を読み、それについて教えるときには、その聖句が「私たちの学問と利益になるように」(I ニーファイ19:23) 見立てる必要があります。

また、教会に反対する人々に対処するときにも、モルモン経を使わなければなりません。父なる神とその御子イエス・キリストは、驚くべき示現のうちに、ジョセフ・スミスのもとを訪れました。その栄えある出来事後、ジョセフ・スミスはそのことをひとりの牧師に語りました。ところが驚いたことに、その牧師は、今の時代に示現だの啓示だのというものはない、そのようなものはすべて過去のことだと言って、ジョセフ・スミスをあざけったのでした。(ジョセフ・スミス2:21参照)

この言葉は、非会員や異論を唱える会員が教会に対して投げかける反論を象徴するものでした。言い換えれば、彼らは、神が予言者たちを通して今日も教会にのみこころを示されるという事実を信じていないのです。墮胎、多妻結婚、あるいは安息日の曜日など、どのような事柄であろうと、それらはすべて基本的に、ジョセフ・スミスとその後継者が実際に神から啓示を受ける予言者が否かという点に帰着します。次にモルモン経を使って、多くの反論を

予 言者ジョセフ・スミスは
次のように証しています。

「モルモン経はこの地上において最も正確な書物であり、私たちの宗教のかなめ石であって、人がその教えに従って最も神に近づくことのできる書物である。」



どのように処理すればよいか、その手順を示しましょう。

第1に、反論されている事柄について理解する。

第2に、啓示からその答えを出す。

第3に、その答えがどれほど正しいものであるかは、啓示が現代の予言者を通じて与えられるか否かという点にかかっていることを示す。

第4に、現代にも予言者と啓示が存在するかどうかは、モルモン経が真実か否かにすべてがかかっていることを説明する。

したがって、反対者が解決しなければならない問題はただひとつ、モルモン経が真実か否かです。もしモルモン経が真実の書物であるならば、イエスはキリストであり、ジョセフ・スミスは予言者であり、また末日聖徒イエス・キリスト教会は真の教会であって、この教会は今日予言者が啓示を受けて導いていることとなります。

私たちの主要な務め

私たちの主要な務めは福音を宣べ伝えることです。しかも、有効に宣べ伝えなければなりません。私たちはすべての反論に答える義務はありません。人は皆、信仰をもって物事を決しなければならぬ状態に置かれることがいつかはあります。そのときにはすべてを自分自身で決しなければなりません。ニーファイは次のように語っています。「あなたたちがもしもこの言葉がキリストの言葉でないと思っても、終りの日になってキリストは能力と大きな栄光とを以てそれがキリストの言葉であることをあなたたちに認めさせたもう。そのときにあなたたちと私とはキリストの法廷で対面する。そうすれば、あなたたちは私が弱い者であるのにこれらの事を書けとキリストから言われたことを知るであろう。」(II ニーファイ 33: 11) 人は皆、神から責任を問われることを知り、みずからを裁くに違いありません。

主はモルモン経について、「イスラエルの家に属する……民の旗」となり、その言葉は「世界の隅々までも響きわたる」(II ニーファイ 29: 2) と告げておられます。私たち教会員は、特に宣教師は、このモルモン経を世界の隅々までも響きわたらせ、証する者とならなければなりません。

モルモン経は私たちが掲げるべき偉大な旗です。それはジョセフ・スミスが予言者であったことを示し、キリストのみ言葉を告げるものです。そしてモルモン経のもつ大きな使命は、人々をキリストのもとに導くことです。その他の事柄はすべて二義的なものです。「あなたはキリストについてもっと知りたいですか」というのが、モルモン経の黄金の質問です。モルモン経によって立派な求道者が見つかります。そこには「俗世間に喜ばれること」(I ニーファイ 6: 5) は書かれていません。したがって、世俗的な生活を追い求める人々はモルモン経に関心を示しません。この

書物は人々をえり分ける大きなふるいなのです。

一生懸命に学ぶ

モルモン経に説かれている教えを一生懸命に学び、またこれを誠実に伝道の業に用いている人は、ユダヤ人と異邦人とレーマン人に私たちの告げるメッセージが真実なものであることを確信させるために、神がこの書物を伝道の道具として宣教師に与えておられることをその心に強く感じるに違いありません。

ところが私たちは、十分にモルモン経を活用していません。もしも私たちがそれを用いて子供たちをキリストのもとへ導かなければ、家庭は堅固なものとならないでしょう。また、この書物を使って偽りを明らかにし、それに対抗するすべを学ばなければ、私たちの家族は世の流行や教えに打ち負かされてしまうかもしれません。宣教師はモルモン経を携えて福音を宣べ伝えなければ、よい成果を上げることができません。親しい交わり、倫理的な面、文化的な面、教育的な面に引かれて教会に改宗した人も、モルモン経に記されている完全な福音にまでその根を下ろさなければ、現代の誘惑に耐えることはできないでしょう。またモルモン経を旗として掲げなければ、福音を教えるクラスは霊的に満たされることがないでしょう。さらに、神のみ言葉を読んでそれを心に留め、秘密結社を助長させるようなことをやめない限り、国家は次第に衰退するようになります。モルモン経には、過去のアメリカの文明が秘密結社のために滅びたことが記録されています。

新たな誓約を心に留める

初期の宣教師の中のある人々は、伝道の帰途、モルモン経を軽々しく扱ったために、教義と聖約84章にあるように、主の叱責を受けました。そうした行為の結果、彼らの心は暗くなっていました。主が語っておられるように、モルモン経を軽んじる行為は、全教会を、またシオンの子らをさええのろいの下に置いたのです。続いて主は言っておられます。「されば人々悔い改めて、新なる誓約すなわちモルモン経と先にわが与えたる以前の誓約とを思い起して、ただこれを口にするのみならず、またわが誌したる所に従いてこれを実行するまで依然この呪いの下にあるべし。」(教義と聖約84: 54-57参照) 私たちは今なおこののろいの下にとどまってはいるのでしょうか。

モルモン経を読む人は、伝道に出たいという気持ちを抱くに違いありません。現在私たちはもっと多くの宣教師を必要としています。しかし私たちが必要としているのは、モルモン経をよく理解し、愛読している人々の所属するワード部、支部や家庭から出る、よく準備のできた宣教師です。宣教師としてモルモン経を携えて人々を訪ね、福音を伝える大きなチャレンジと準備の日は間近に迫っています。

私たちは福音のメッセージを宣べ伝えるにふさわしい霊的な宣教師を必要としているのです。

結果がどのように出るかは、私たちがモルモン経にどのように応じるかにかかっています。

主は言っておられます。「信仰をしてこれを受け入れ義しき行為をなす人々は永遠の生命の栄冠を受くべし。

されど信ぜずして心を頑固にし、これを受け入れざる人々はこのこと己れらが罪せらるる所以となるべし。

何となれば、これを主なる神語りたまいたればなり。」(教義と聖約20:14-16)

モルモン経は真実の書物でしょうか。そうです。確かに真実の書物です。

それはだれのための書物でしょうか。私たちのために備えられた書物です。

その目的は何でしょうか。人々をキリストのもとに導くことです。

それはどのようにして行なわれるのでしょうか。キリストについて証し、キリストの敵を明らかにすることによつてです。

私たちはモルモン経をどのように使うべきなのでしょう。モルモン経について証を得、これを使って教え、これを旗として掲げ、伝え広めるのです。

私たちはこのことを行なってきたでしょうか。まだまだ十分ではありません。

永遠の結果は、本当にこの書物に対する私たちの態度にかかっているのでしょうか。そうです。祝福ものろいもモルモン経に対する私たちの態度にかかっています。

生涯にわたって学び続ける

末日聖徒はすべて、生涯この書物を学び続けるべきです。さもなければ、自分自身を危険にさらし、信仰と知識の一致をもたらすものをなおざりにしていることになるのです。確かに、モルモン経を読んでキリストの岩を基にして立ち、鉄の棒にしっかりつかまっている改宗者と、そうでない改宗者との間には大きな隔たりがあります。

四半世紀前、マリオン・G・ロムニー長老がこのタバナクルで次のように語ったことがあります。「私が弁護士を開業しようとしていたときのことです。私の家族はそのことを少し心配していました。私が信仰を失うのではないかと恐れていたのです。確かに私は、弁護士として働きたいと思っていました。それ以上に、自分の証を保ちたいと強く望んでいました。そこで私はちょっとした計画を立てました。皆さんにもお勧めしたいと思います。それは、毎朝一日の仕事を始める前に、30分間モルモン経を読むという計画でした。

……こうして私は一日のうちのわずかな時間を割いてモルモン経を読み続けました。そしてそれは9年間続いたの

です。こうして私は、モルモン経に書かれている事柄に添った生活を送っていれば、主のみたまとの調和を保つことができることを知りました。

モルモン経は、何にも増して私を主のみたまに近づけてくれます。」(「大会報告」1949年4月, p.36)

私もロムニー会長の勧告にまったく同感です。

次に、私たちはモルモン経について何を語らなければならないでしょうか。この書物は真実の書物であるという自分の証です。私はこのことを、自分が今生きていることを知っているように確かに知っています。かつて予言者ジョセフ・スミスは次のように言いましたが、私たちもこれに唱和したいと思います。「私は兄弟たちに、モルモン経はこの地上において最も正確な書物であり、私たちの宗教のかなめ石であつて、人がその教えに従って神に近づくことのできる書物であると語った。」

皆さんがこのかなめ石について知り、これを活用し、もっと神に近づくことができるように心から願っています。□

ホームティーチャーへの提案

強調点：ホームティーチングのときに、以下の点について話し合うとよいでしょう。

1. ベンソン大管長は、モルモン経は現代の私たちのために書かれた書物であるという点を指摘している。モルモン経は、「ユダヤ人と異邦人とにイエスは永遠の神なるキリスト」であることを理解させるために記録された。
2. ベンソン大管長は、祈りの気持ちでモルモン経を読み、忠実にその教えに従うキリストの謙遜な弟子は、悪魔の邪悪な企てに立ち向かう力を得ることができる、と述べている。
3. 末日聖徒はすべて、モルモン経を生涯学び続けていかなければならない。ベンソン大管長は、もしそうしなければ、自分自身を危険にさらしていることになることを警告している。

話し合いを進めるために

1. モルモン経の主要な目的は何か。
2. 私たちはモルモン経が神のみ言葉であるということに関して、予言者たちの証に依存しなければならないのだろうか。自分自身でその確信を得ることはできないのか。
3. 祈りの気持ちでモルモン経を読むことにより、どのような祝福が得られるだろうか。
4. モルモン経と、それがあなたにとって重要な意味を持つものであることについて証をする。



モルモン経が

モルモン経に対して私が始めて証を得たのは、高校のセミナークラスにいたときでした。私たちは教師から、モルモン経を全部読み終えるようチャレ

与えてくれるもの——日々の糧

ドゥワン・J・ヤング

ンジを受けたのです。それまでの私は、まだ全部を読み通したことがありませんでした。読んでいて、真実であるというみたまの証が感じられるたびに涙が頬を伝わってきたことを覚えています。私は、主がニーファイに言われたように「汝は信仰ある故にさいわいなり。そは、汝へりくだりたる心もて熱心にわれをたずね求めたればなり」(I ニーファイ 2 : 19) と主から言ってもらえるようなふさわしい人になりたいと思ったものです。

それから3年ほどたって、私は祝福師の祝福を受けました。その中で私は、証を強めるために祈りの気持ちでモルモン経を読むよう勧告を受けたのです。この約束は、この神聖な経典を続けて学ぶにつれ、年々成就されつつあります。

モルモン経の教えのおかげで、祈りの必要性と祈りがもたらしてくれる祝福に対する私の証は大いに強められました。十代の若者として、私はアルマ書34章17節から27節までの勧告を文字どおりとらえ、試験を受ける前や、ピアノの発表会の前に、そして人前で話をしなければならぬときなど、必ず祈るようにしていました。また赦しを願ったり、知識を求めて祈ったりしたこともありました。私の中には、天父が常にそばにおられ、絶えず私に平安と慰めを与えてくださるという確信があったのです。

我が家の一番下の息子ジェフがまだよちよち歩きころのことですが、私は理由こそ違え、イノスのように(イノス 1 : 4 参照) 熱烈な祈りを捧げたことがありました。ジェフは塗料用のシンナーを飲み込んでしまい、呼吸困難に陥ってしまったのです。私は彼を腕に抱きかかえると、半狂乱のまま車に飛び乗り、呼吸ができるようにと主に声高に祈りながら、近くの病院の救急室に駆け込みました。永遠にも似た時間が経過した後、酸素不足から体はかなり青白くなっていましたが、気道が開き、ジェフは呼吸を始めたのです。私の祈りは聞きとどけられたのです。感謝のあまり私は涙を止めることができませんでした。

その後の5年間は私にとって生涯で最もつらい時期となりました。私たち夫婦はもっと子供が欲しいと思っていましたが、その祝福がなかなか与えられませんでした。そのような中でヤコブ書 4 章 10 節を読んでいて私は、その聖句から慰めを受けたのです。「主に向かって勧めをしようとはしないで主から訓戒を受けようませよ。ごらん、あなたたちは主が智恵と正義と大きな憐れみをもって、造りたもうた万物を勧め戒めて治めたもうていることを知っている。」主は、私たちにとって何が一番よいかを私たち以上によくご

存じであるということを理解する必要があったのです。主に信頼を置くようになってから、私の心は安らぐようになりました。そしてその後、私たちは多くの子供に恵まれたのです。それは確かに、主の時間表に合ったものだったのでしょうか。

人生には試練がつきものです。しかしモルモン経は私たちがそれらに積極的に取り組む力を与えてくれます。ヒラマンに対するアルマの忠告は、長い間私の目標となってきました。アルマはこう言っています。「朝起きる時には神に感謝する念を胸に満せ。」(アルマ 37 : 37) こうした感謝の気持ちは、その日一日を幸せにしてくれるはずですよ。

責任が与えられ、自分の能力の無さを感じる時、私はアルマ書 20 章の 4 節にあるアルマに与えたラモーナイの指示を思い起こすようにしています。ラモーナイのこの言葉は私に対して与えられたものでもあるのです。「われは汝が主の能力で何事でもできることを知っている。」この言葉はどんな責任をも積極的に受け入れ、前進していく勇気を与えてくれます。

私にとってモルモン経を通して得られた最も大切なものは、救い主イエス・キリストに対する深い愛と敬虔の念です。私はニーファイ第三書を読むたびに、私もその場において、御父に語りかけられる主のみ声を聞き、子供たちを祝福される主にまみえることができたならと願わずにはいられないのです。(III ニーファイ 17 参照) しかしこの偉大な書物を祈りの気持ちで読むときに、私にもその主のみ言葉が聞こえてくるのを感じます。私の証は確かに強められ、より豊かな人生を送っています。私たちが自分の務めを果たし、「キリストの言葉をよく味わう」(II ニーファイ 32 : 3) ならば、それらは私たちのなすべきことをすべて教えてくれるに違いありません。□



●シマゼーラー支部の会員たち（右端が
フリー兄弟）

●ウィルソン・ヌククワと妻のジュティス・ヌククワ、
その子供たち

●イリング支部の会員たち

クイーンズタウンからシマ

南アフリカの高等評議員は、孤立した黒人の 会員たちへの奉仕によって強められていった

ダーバン南アフリカステキ部の高等評議員代理として新しく任命された私が、クイーンズタウンを最初に訪れた旅は、忘れられない数々の経験の始まりでした。それらの経験を通して、天父が神の子を人種を超えて導き、神に仕える者たちに愛とみ守りを与えておられることを理解するようになりました。

クイーンズタウンはケープ・プロビンスの東部に位置する盆地で、シスキとトランスキの黒人たちが居住する州の境のところにありました。私の担当は海沿いのイーストロンドン、クイーンズタウン、シスキのサダとシマゼーラー、トランスキのイリンゲの各ユニットでした。

最近ジンバブエのハラレから移住して来たばかりの私は、最初はダニス・ローベンヒーマー兄弟の同僚として訪問しました。彼は以前地方部長会の責任にあり、私の担当地域の事情によく通じていました。

葬儀店の集会場

クイーンズタウン支部の集会場は一風変わった場所で、非教会員が経営する葬儀屋の建物を無料で借りていました。そこには羽目板の壁と薄暗い照明、そしてオルガンが一台ありました。聖餐会の最後の話者はいつも、教会の横で鳴る鐘の音の邪魔が入ります。そのやかましい音は時折数分も続くことがあって、話者はその間話を中断するか、あるいは鐘の音よりも大きい声で話すかしなければなりません。支部の集会は日曜日の朝7時に始まるので、集会を終えてから遠く離れた黒人の諸州の支部を訪問するには十分に時間がありません。

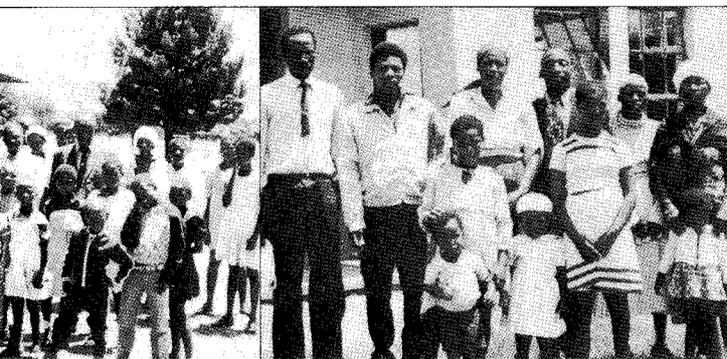
クイーンズタウンへの最初の訪問が終わると、ローベンヒーマー兄弟と私はイリンゲに向かいました。そこではオーグステン・ムジェーバ支部長をはじめとして70人以上の聖徒たちに会いました。彼らの集会所は、波形のトタン屋根と汚れた床の学校の教室を借りたもので、アフリカの太鼓で歌のリズムをとる他の宗教団体と共同で建物を使用していました。太鼓と歌で集会を中断されることはあっても、私たちはみたまを強く受けました。そうした環境の中で集まっている聖徒たちからは温かい愛を感じました。

クイーンズタウンへの2度目の訪問では、サダ支部とシマゼーラー支部に立ち寄ることになりました。

ユニークなハーモニー

サダの教会員もイリンゲと同じように学校の校舎で集会をしていましたが、違う点は床が松の枝できていることでした。ヘドマン・クウオーラ支部長が人なつこい笑顔で、私たちの到着を迎えてくれました。ここでも再び、60人以上の支部の会員が私たちを握手で歓迎しようと、一列に並んで待っていてくれました。

私たちに彼らのコサ語がわからないのと同じように、彼らも英語がわからないので、支部では通訳者を使いました。(高等評議員は言葉を勉強するようにというステキ部長の指示が出てからは、この障害も克服されつつあります)これらの支部で聞く歌はすばらしいものでした。澄み切った響きのよい声で全身から表わす喜びの歌。そのすばらしい



●サダ支部の会員たち

ゼーラーへ

E・E・フリー

ハーモニーと声量に、ぜひ耳を傾けていただきたいものです。サダ支部の聖徒たちとの霊的な集会を済ませると、私たちは曲りくねった砂利道をシマゼーラーへと出発しました。途中の道では道路にさまよい出て来る羊や山羊に絶えず注意を払ってなければなりませんし、石ころだらけの川底を渡るときも注意しなければなりません。振動のために車のマフラーがはずれてしまったこともありました。

シマゼーラーでは、ウィルソン・ヌククワと妻であるジュディス・ヌククワ、それに8人の子供からなる非常に霊的な家族に会いました。典型的なロンダバル（南アフリカ原住民の丸い小屋）の石の外壁には、ヌククワ兄弟が施した見事な細工があります。また、しみひとつない清潔な家の壁には、大管長と教会幹部の写真、それに讚美歌の歌詞が書いてあるポスターが掛けてあります。

ローベンヒーマー兄弟の言葉を借りれば、謙遜な彼らの家庭では子供たちまでがやさしい口調で語り、その敬虔さと霊性はあたかも主の宮居にいるようでした。

毎週の訪問

最初のころの訪問の直後に、ローベンヒーマー兄弟がイーストロンドンワード部の監督に召され、我が家もクイーンズタウンに引っ越しました。私はクイーンズタウンの宣教師と家族の協力を得て、以前は月に1回だった遠い支部への訪問を毎週行なうようにしました。

クイーンズタウンの黒人居住区で暴動が起こるまでは、この訪問も成功のうちに続けられていました。しかし、暴動が激しくなるにつれて、教会の集会ができなくなり、サダの学校の一部が焼かれて、教会員には集会所がなくなってしまいました。安全のために宣教師が召還され、このような地域への訪問も主のみたまによる勧めがあったときだけ行なわれるようになりました。

ある日、そうした訪問で息子と共にサダへ行った私は、支部の兄弟たちが地域のすべての男性たちと共に、政治集会に強制的に出席させられていたことを知りました。しかし私たちは姉妹たちに霊的な励ましを与えることができ、またひどい頭痛に悩まされていた姉妹に癒しの儀式を施しました。

主のみ守りを求めて

次の目的地はシマゼーラーでした。私たちがヌククワ兄弟を訪問すると、前の晩に地域の若者たちがいくつかの家族を襲って家に押し入り、殴打したことを教えてくれました。ヌククワ家族はひざまずいて祈り、主のみ守りを求めました。翌日の安息日の朝になりましたが、彼らの家は無事に壊されずに済みました。

後日シマゼーラーを訪問した私と息子のリチャードは、ヌククワ兄弟が重病であることを知りました。そこで私

たちは聖餐の祝福をしたのですが、ヌククワ兄弟が聖餐に対する敬虔な思いを表わすために、上着とネクタイを身につけなければならないと言うので、結局起き上がって洋服を着るまで待っていました。彼は私とリチャードが必ずその日に来ることがわかっていたこと、そしてみたまによってすべてが首尾よく行なわれることを知らされていたことを、涙ながらに話してくれました。私たちは帰る前に、神権の権能によってヌククワ兄弟を祝福しました。

翌日ヌククワ兄弟の具合を見に行くと、奥さんのジュディスがいて、ヌククワ兄弟はすっかり元気になって畑を耕しに行っていると言うのです。

警告に耳を傾ける

ある日曜日、サダの会員たちに会いに行こうとしていた私は、不吉なものを感じました。そこで妻に、私が行かないとしたら会員たちをがっかりさせることになると思うと話すと、彼女の返事はこうでした。「アーニー、みたまが行かないように勧めるのなら、その警告に耳を傾けなければいけないわ。」私はそのとおりにしました。次にサダを訪問して、彼女の忠告が賢明であったことがわかりました。もしその日曜日に訪問していたら、私は暴動に巻き込まれるところでした。警察は怒り狂った群衆を鎮圧するために催涙ガスを使い、そのガスのために聖徒たちは避難しなければならなかったのです。

トランスキの州政府は可能な限りの治安を回復し、私はイリングへの定期的な訪問を続けました。しかしクイーンズタウンとシスキー帯では、依然として暴動が続いていました。サダの聖餐会の出席者は急激に減っていきました。

私は再び、日曜日のサダの集会に行かないようにという導きを感じました。今度は何の疑いもなくその警告に従いました。クォーラ支部長が後に話してくれたのですが、サダの会員たちは私とその日に訪問をしないようにと、熱烈な祈りを捧げていたそうです。クォーラ支部長を密告者、そして私を政府のスパイだと思込んだ男たちの一団が、私を取り押さえようと待ち伏せていたのです。

悲しいことでしたが、混乱が治まるまでサダ支部を閉鎖するよう、私はステーキ部長に勧めました。閉鎖は実行され、支部は4カ月間だれも訪れることのないまま放置されました。その後サダの状況を確認するために戻った私とブライアン・シンパー兄弟は、会員たちが4カ月間を無事に耐え抜いていたことを知りました。

クイーンズタウンの会員や心から奉仕している信仰篤い宣教師たちもそうですが、イリングとシマゼーラーとサダの会員たちとの交わりはまさに祝福でした。アフリカの人人々と共に福音を分かち合う業に励んできて、やがて成就されるであろう大いなるみ業に対する証を、私は彼らによって得ることができたのです。□

質 疑 応 答

本誌の答えは問題解決の一助として与えられたものであり、
教会の教義を公式に宣言するものではありません。

教会のことについて疑問を持った
り、確信が持てなかつたりするこ
とはいけないことでしょうか。

回答者

サーシャ・ウィリアム・カピンスキー

(モーガンヒル・カリフォルニア第2ワード部会員。長い
間真実の教会を探し求めたのち、1971年に教会に改宗する)

信仰は非常に個人的な事柄です。主を信頼するかどう
か、またどれだけ主に信頼を置くかは私たちに任さ
れています。また人は、生涯のいろいろな時期に、いろ
んな方法で信仰に到達します。主は、私たちが真心から真
理を求め証を得、それを守っていく決心をしたときに証を
得させてくださいます。

証を求めていく段階で、さらには信仰を強めていくう
えで時折疑問を抱いたり、確信が得られなかつたりするこ
とはよくあることです。誠実な思いで知識を求めている限り、
疑問を持つことは少しも悪いことはありません。ただし
心しておかなければならないのは、そのような疑問を常に
誠実なものとしておくということです。

では誠実な疑問とそうでない疑問の違いは何でしょうか。
まず誠実な疑問は、真実の答えを求めます。そして真理に
関してより完全な理解を得させようと努めます。誠実な疑
問を抱いている人は、真心から知識を求め、^{まごころ}進歩しよう
としている人です。

それに比べ、誠実さのない疑問はその疑問自体を永続的
なものとしてしまいます。そういった不誠実な人は批判
的な気持ちや頑固さから、知識に理解を示すどころかむし
ろ反発を抱くものです。そしてそれはやがて疑いや不信感
へと変わり、確信の持てない考えや事柄に真っ向から対立
するようになるのです。

ではこのような違いを生むものは何でしょうか。それは
信仰です。一見して、不安や疑惑をその人の信仰の度合い

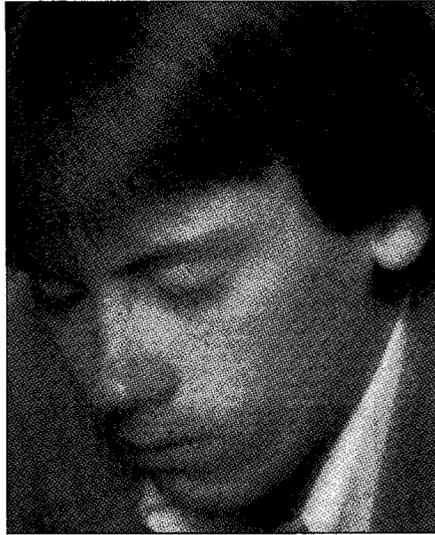
を示すものとしてとらえるのはおかしいかもしれません。
なぜなら、不安や疑問は信仰とはまったく逆のものとして
考えられることが多いからです。しかしここで考えなければ
ならないのは、信仰というものの性質です。信仰を身に
つけた誠実な人が抱く疑問は、現在の自分の理解を超えた
知識がまだ存在するのではないかとといった疑問です。その
ような疑問を抱いた人は、自分の知識の不完全さを認めて
謙遜になれる人です。また、自分自身の中に、また神に対
して、理解力も知識も証もみな熱心な努力と探求の後に得
られるというより大きな信仰を^{はく}育んでいく人です。

若いジョセフ・スミスは、心を悩ましていた疑問に答え
を得ようと、誠実な思いで森に入りました。彼は、ヤコブ
書1章5節から6節までの言葉に促されたのでした。「あな
たがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人
は、とがめもせず惜しみなくすべての人に与える神に、
願ひ求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。

ただ、疑わないうで、信仰をもって願ひ求めなさい。疑う
人は、風の吹くままに揺れ動く海の波に似ている。」

つまり、誠実な疑問には信仰が欠かせないことがわかり
ます。誠実な疑問を抱いている人が発奮して自分の目指す
知識や証を得るようになるには、信仰が必要なのです。

モルモン経の予言者アルマは、不誠実な疑問を抱く人々
が味わう苦悶と、それとは対照的に、心の誠実な人々が受
ける祝福について語っています。「それであるから心をかた
くなにする者は僅ばかり神の教えを賜わり、その心をかた



くなくない者は全く一つのこらず神の奥義が解るまで教えを賜わる。

心をかたくなにする者はただ僅な神の教えを賜うだけであるから、ついに神の奥義を知らぬ有様となる。それからこれらの人は悪魔に捕えられて亡びるまで悪魔の意に従う。」(アルマ12:10-11)

不安な気持ちは、知識不足からくることが多いようです。したがって、知識を身につける方法を知ることは大切なことです。アルマは真理を知るすばらしい方法を教えてくれています。信仰を「完全に物事を知ることではない」(アルマ32:26)と定義したあとで、彼は真理を、心の中にまかれ主のみたまによって養われる種にたとえています。その種は、次第に膨らみ、芽を出し、心の隅々まで広がって、理解力を深めさせてくれます。そしてその種を不信心の心で抜き取ったりせず、手をかけていけば、やがて成長し、実を結ぶのです。

「さてあなたたちがこのように知るのには完全な知識であるか。その通り、ただこのことのみに関しては完全であるから、このことに関するあなたたちの信仰と言うものは眠っている。これはあなたたちがすでに知識があるからである。神の言葉がすでにあなたたちの心を大きく開き、種子のように芽を吹き出したのであるから、あなたたちは自分の理解力が増し、自分の頭が開けてくることを感じて知っている。」(アルマ32:34)

真理を真心から求めている人は、こうして次の疑問(不完全な知識)へと心に向けていき、同じように種をまき、育てる過程を繰り返すのです。

ではその結果はどうなるでしょうか。「神の御言葉である木が生え始める時からその実の生る時を待ち設けながら勉

めはげんで、気長によく信仰を以てこれを養うならば、その木は根を下ろして永遠の生命を生ずる木になるであろう。

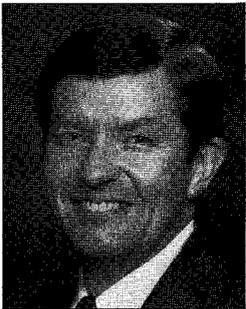
このように、あなたたちが心の中に神の御言葉の根がつくように勉めはげみ、厚い信仰を以て気長に御言葉を養い育てるならば、やがてその言葉の実をとって腹に満ちるまでそれを食ひ、もう飢えることもなく渴くこともないであろう。この言葉の実は最も貴重であってあらゆる甘いものよりも甘く、あらゆる白いものよりも白く、あらゆる清いものよりも清い。」(アルマ32:41-42)

モロナイはさらに、不安を克服するために必要な別の誠実さについて述べています。私たちは何かを求めるときには、まず「キリストの御名によって永遠の父なる神に問う必要があります。もし私たちが「誠心誠意でその上キリストを信じながら問うならば、神は聖霊の力によって……確かなものであることを……示したもう」に違いありません。

そして「聖霊の力によって一切の事の真実であるかどうか」わかるのです。(モロナイ10:4-5)

たとえばしばしば福音に対して疑問が出てくるようであっても自分の証が健全なものかどうかに対して不安を抱く必要はありません。ただ、私たちはすべてを理解しているのではないということを認識しておかなければなりません。そのような認識を持ったうえで、不明な点に誠実に理解を求めるのです。私たちの疑問は、信頼できる指導者のところへ持っていくようにすべきです。そして十分に検討し、「誠心誠意」「キリストを信じながら」祈るのです。このようにすれば、私たちは、「一切の事の真実であるかどうか」わかるでしょう。

私は移植のための臓器提供を考えていますが、そのような考えを持つことは間違っているのでしょうか。



回答者
セシル・O・
サミュエルソン・ジュニア
(地区代表、外科医)

臓器移植は、今の時代の医学の驚異のひとつです。医学は、損傷、あるいは病気に冒された腎臓、角膜、心臓、肝臓、骨、骨髄、皮膚、すい臓など身体の一部の移植がかなり一般的に行なわれるほどまでに進歩してきました。ほとんどの提供者は死に先立って特定の臓器や組織を提供する考えでいますが、腎臓などのように、臓器によっては必要に応じて提供者が健在なうちに提供されるものもあります。

どんな科学の進歩の場合もそうですが、臓器移植にもかなり深刻な金銭的、倫理的、人道的、宗教的問題がからんでいます。また人生の他の重要な問題に対すると同様に、臓器移植に関しても私たちはよく情報を調べて決断を下し、自分のなした選択に関して知恵を祈り求めるよう勧告されています。(教義と聖約9：7-9；58：26-28参照)

臓器移植に関して教会は一切公式な見解はとっていません。しかし死後、臓器がすぐに地の基本元素にもどってしまうことから、臓器移植が復活に影響を及ぼすことがないことは明らかです。死後臓器に何が起ころうと、私たちは「手足も骨の関節もみな元の自然の完全な身体のものにか

えり、髪の毛一筋もなくなら〔ない〕」(アルマ40：23)と約束されています。

一方、臓器提供や移植によって、大勢の人々がまたその家族がすばらしい祝福を受けています。移植を手がけている何人かの医師から、私はそうした特別な援助を受けた人々の感動的な話や手紙を紹介してもらっています。家族の死を悲しむ一方で、生命維持に必要な臓器が移植されたことにより他の人の命が救われ、少しなりとも病状改善に役立ったという知らせに大いに慰められた家族もあります。また家族を重い病気や死から守るために、生きている間に臓器を提供してきた家族もあります。

こうした与える側と受ける側の立場にある人々と接し、命や健康を捧げるといふ行為の中にある自己を捨てた愛を見るにつけ、私は神殿に入ろうとしたペテロとヨハネが、物乞いをしている足の不自由な人に言った言葉を思い起こします。足の不自由なその人は、癒されることよりも施しを願ったのです。貧しいその人に、ペテロはこう言いました。「金銀はわたしには無い。しかし、わたしにあるものをあげよう。」(使徒3：6)

家族に腎臓を提供しようと考えている人々は、相当厳しい条件を満たさなければ提供者になれないことをよく頭に入れておく必要があります。慎重な審査と移植技術の向上によって、最近では提供者が数年前までよく見られた危険性に直面するようなことはなくなりました。健康な人であれば、片方を提供してももう片方の腎臓で十分正常な生活を送ることができます。

生命維持に必要な臓器移植がまだかなり個人的な問題となっている現状では、こうした問題は祈りをもって熟慮する必要があるでしょう。□

リカルド・ペレス

グアテマラのケツアルタナンゴで三代にわたり福音を築きあげてきた人

ドン・L・サール

●若き日のリカルド・ペレス

真実のイエス・キリストの教会には生ける予言者がいるはずだ、リカルド・ペレスはそう信じていました。はたしてそのような教会はあったのでしょうか。

聖書を通して、彼は家族や友人たちの思惑^{おもひかく}をよそに代々通っていた教会をあとにすることになったのです。1954年当時のグアテマラにおいては、これは愚かな行為として人々の目に映ったに違いありません。しかしリカルドには、もはやこれまで受けてきた教えに従う気持ちはありませんでした。青年時代を過ごした教会をあとにするにあたって、彼は心の中でこれまでの誤った教えにも別れを告げたのでした。そして彼は新たに、神の認めたもう教会を、そして真理を求め始めたのです。

彼は、いくつかの教会を調べてみました。しかし「古代の使徒たちが教えているような信仰を实践できる場所は見つかりませんでした。」彼はこう回顧しています。聖書を通して、彼は真実の教会には生ける予言者や使徒、浸礼、会員に対する適切な聖餐の執行など明らかな特徴があるはずだという強い確信があったのです。

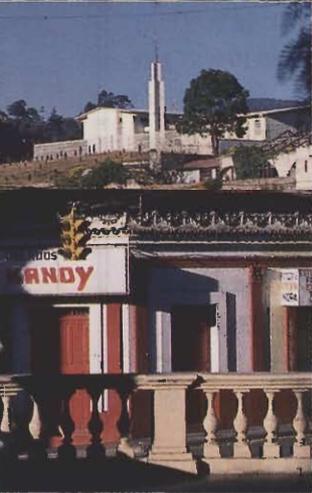
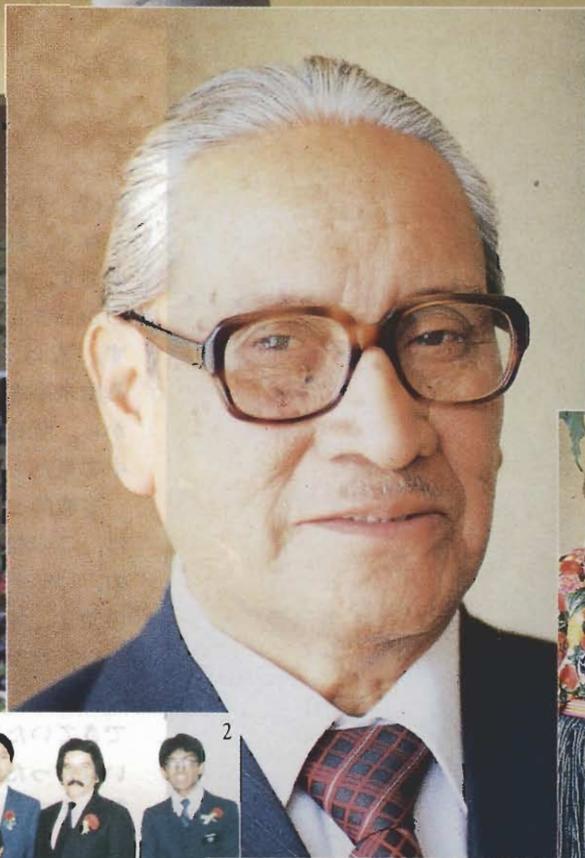
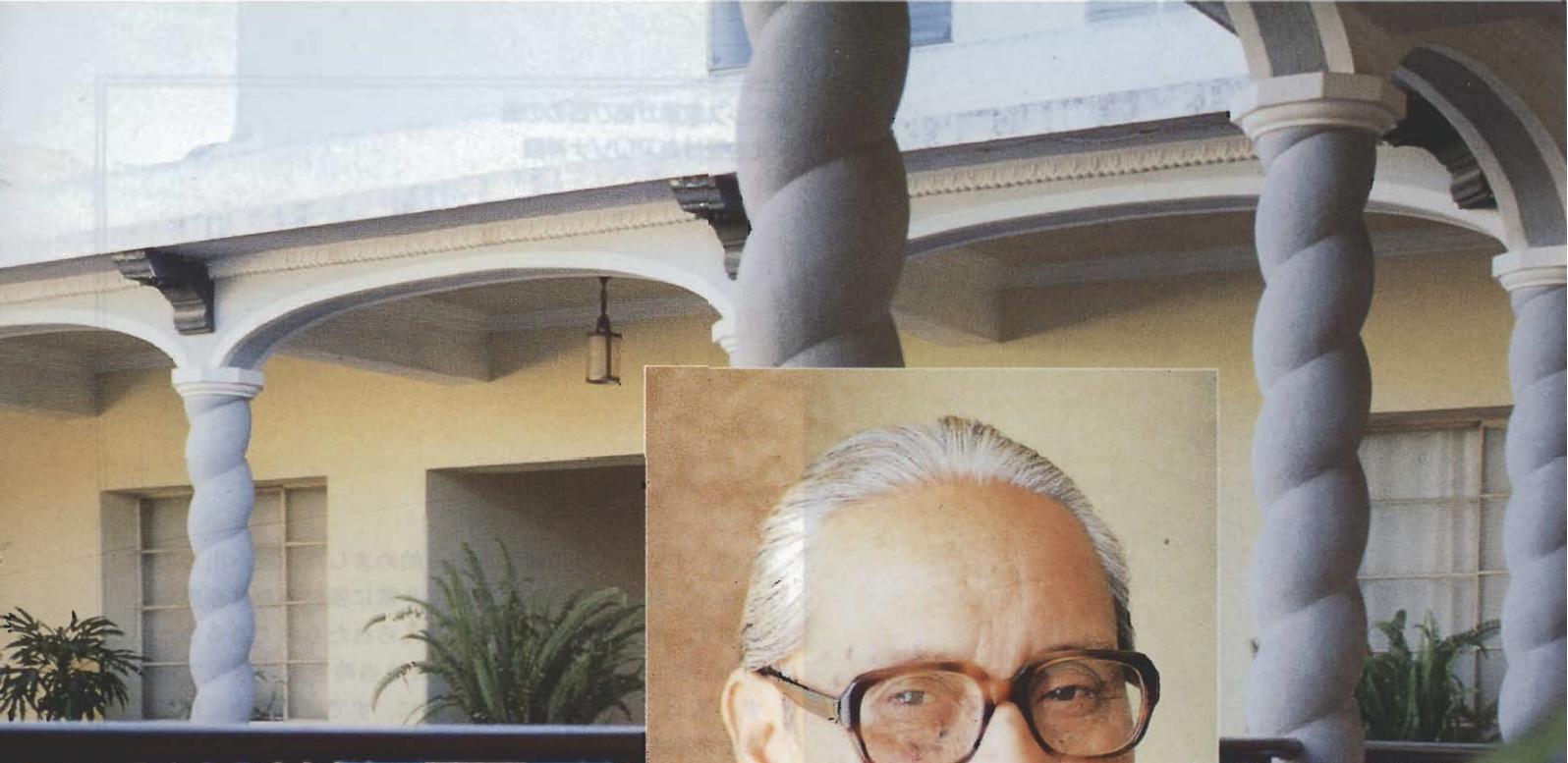
新しい聖書を買っている場所を探していて、彼はついに探し求めていた教会に導かれることになりました。「この辺でよく北アメリカから来た若者たちを見かけるけど、聖書を買っているようだよ。」リカルドの営む洋服屋の店員のひとりが言いました。ちょうどそのとき、ふたりの末日聖徒の宣教師が店の前を通りかかったのです。「あの人たちだよ。」店員が言いました。

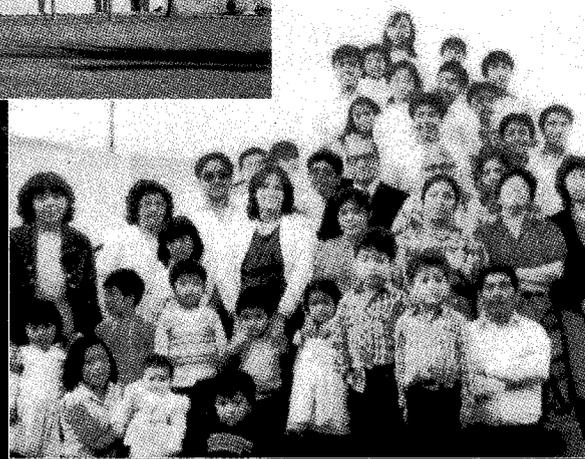
宣教師たちは、本を買っているのではなく福音を宣べ伝えていること、聖書だけでなくモルモン経と呼ばれる書物の教えも伝えていることなどを説明し、興味があれば1週間モルモン経を貸し出すことを申し出ました。

「神のことについてもっと詳しく知りたいと思っていた



1. ケツアルタナンゴ西ステーキ部センター
2. ペレス家族
3. グアテマラの市場
4. 若き日のペレス兄弟、姉妹
5. 現在のペレス兄弟、姉妹
6. 娘のアンヘリナ
7. 息子のイスラール、グアテマラの地区代表の任にある。





●ペレス家族が結び固めの儀式を受けたアリゾナ神殿

私は、すぐさまその書物を読み始めました。読み出して間もなく、私はその書物に対して非常に強いみたまを感じたのです。そしてそれが神から与えられたものであることがわかりました。」ペレス兄弟はこう当時を思い返しています。「私は、モルモン経を読む前に、すでにその中に出てくる出来事を夢の中で見るほどまでになっていました。ですから、翌日モルモン経を読んでみると、それはすでに夢の中で見たものだったということがたびたびあったのです。」

宣教師と一緒に教会の集会に出席したりカルド・ペレスは、この教会が彼の確信する真実の教会が有しているはずの、いやそれ以上のものをすべて有していることを知ったのです。彼は、自分の学んだことを喜び勇んで妻に伝えました。また子供たちも彼の話信じました。

しかし、彼はキリストの古代の教会について聖書で学んできていたにもかかわらず、什分の一の律法には気づいていなかったのです。苦しい家計の中で、収入の10分の1を差し出すことは彼にとって大変なことでした。「什分の一が払えるかどうかわからない。主が助けてくださり払えるようになるまで待つて、それから会員になろう。」彼は妻に言いました。

しかし、バプテスマを引き延ばそうとする彼の気持ちを変えさせたのは、妻と子供たちでした。十代の娘のアンヘリナは、教会が真実であるという確信を持ち、教会に入ることを強く望んでいました。そこで彼女は母親に、父親の誕生日にみんなと一緒にバプテスマを受けるという特別な誕生日のプレゼントを提案したのです。

妻のイグナシア・ペレス姉妹もすぐに確信を得ることができました。というのも、彼女はすでに何度か夢を見ていたからです。夢の中で、彼女はひとりの若者からカップを差し出され、それを口にしました。娘のアンヘリナに促され、彼女が夫と共に初めて聖餐会に出席したとき、ペレス姉妹は、夢に出てきたカップは聖餐のカップだったことに気づいたのです。

彼女は子供たちと共に宣教師から福音を学び、ついに夫にこう言ったのです。「あなたに私たちから誕生日のプレゼントがあるの。でもその前にあなたの同意が必要だわ。」彼

は什分の一を払う方法はきっと見つかるという判断のもとに、すぐにバプテスマを許可しました。確かに、什分の一を納めることは想像していたほどむずかしいことではありませんでした。

リカルドとイグナシア、それに3人の上の子供たちアンヘリナ、ホルハ、テレサは、1954年1月26日、バプテスマを受けました。下の息子たちイスラール、ビクトルはまだ年が満たないためにバプテスマを受けることはできませんでした。また彼らの一番下の息子ホセア・リカルドは、ペレス家族が教会員となって3年後に生まれています。

こうしてリカルド・ペレスは、新たな信仰に対する新たな決意をもって、数々の指導者としての責任を受けることになります。彼と妻は共に、グアテマラの高地に住むマヤ族の子孫です。教会員となったばかりの彼らは、子供たちを連れて約25キロほど離れた山あいの大きなインディアン部落トネカパンにある支部の集会に集いました。ペレス兄弟はのちに、ケツアルタナンゴの支部の支部長に3度、地方部の副地方部長、地方部評議員、監査員に召されています。監査の仕事は月に4度の日曜日だけでは足りず、週日に遠隔地の支部を訪問することもしばしばでした。

ペレス兄弟姉妹は、1965年にアリゾナ神殿で結び固めを受けましたが、まだ家に残っている子供たちとの結び固めの祝福を願って、ペレス姉妹は祈り続けました。その結果、彼女のとうもろこしパンを売る仕事がうまくいき、資金がたまって3年後に2度目の神殿訪問が実現したのです。次に、すでに結婚している子供たちとの結び固めの必要性を強く感じました。そこでペレス姉妹は、再び導きを祈り求めました。その結果またもやとうもろこしパンを買うお客が増え、彼らはそれによって得た資金で、子供たちとその家族と共に、神殿を訪れることができたのです。そしてペレス兄弟は1975年、新たに組織されたケツアルタナンゴステキー部の祝福師に召されています。

両親と同様に、ペレス家の子供たちは教会への奉仕のために喜んで時間を捧げています。アンヘリナは、支部やワード部、ステキー部の扶助協会会長を6度も務めました。ホルハは、ステキー部長のほかケツアルタナンゴ伝道部お

よびメキシコのメリダ伝道部の伝道部長を務めました。テレサは、ワード部の扶助協会会長など様々な責任を受けてきています。またイスラールは、ケツアルタナンゴステキー部の前ステキー部長であり、現在は地区代表の責任にあります。ビクトルは、ケツアルタナンゴ西ステキー部の副ステキー部長です。一番下のリカルドは、現在グアテマラのケツアルタナンゴ伝道部の副伝道部長です。そしてペレス家の三代目の子供たちも同様に、奉仕という彼らの伝統を守り、それに従っています。

イスラール・ペレスは、父親はいつも熱心に聖典や教会の書物を学び、子供たちに神への愛と教育に対する熱意という贈り物を与えてくれたと語っています。グアテマラの公立学校が、現在では他の多くの国々の学校で取り入れているような12年制を実施していなかったころ、ペレス兄弟は、実施されている教育制度を最大限に利用するよう子供たちに勧めていました。また子供たちには、生計を立てるための職業を選ぶ自由があることを教え、彼らが選んだことには、敬意を持ってそれを受け入れました。

ペレス兄弟姉妹は、子供たちと非常に親密な良い関係を築いています。ペレス家の人々はよく一緒に集まって活動し、常に祈りをもって終わるようにしています。

ホセア・リカルドはこう語っています。「私たちは皆、父を尊敬しています。いろいろためになることを教えてくれるので。」そのためになることというのは、どれもみな子供たちの自由意志を尊重したものです。何かの問題に対して、子供のひとりが答えを求めてくるとペレス兄弟はたいていこう言います。「私はこうするが、自分のことは自分で決めなくてはだめだよ。」

ペレス兄弟は、子供たちの信仰の強さを自分の手柄として誇るような人ではありません。

「私は、教会に心から感謝しています。また子供たちを教え、導いてくれている妻にも感謝しています。子供たちは、真心から福音を受け入れてくれています。私たちにあって、また子供たちにとって福音が実に大きな祝福をもたらしていることを証します。」□

デビッド

マリア・ラモス



夏だというのに、その日曜日はまったく当てはずれでした。空はどんよりと曇り、息子のバプテスマの日なのに今にも雨が降り出しそうなのです。

「8月じゃないみたい。」湖へ行く車に乗り込みながら、デビッドはつぶやきました。けれども湖畔に教会員が集まるころには、日差しがないことなどみんなすっかり忘れていました。誇らしげに微笑みを浮かべて、夫のホザは冷たい水の中へデビッドを連れて行きました。

夫がバプテスマの祈りをして、静かに息子を水に沈めるのを私はじっと見ていました。デビッドが新しく生まれ変

わって水から出てくるのを見て、私の顔にも微笑みが浮かびました。

息子は、水をかき分けながら土手まで来ると、友達からの歓迎を受け、タオルでもみくちやにされました。彼は一瞬ぼんやりしていましたが、顔を上げて私の目を見るとニコニコしながら「わーい、これで本当の教会の会員になったぞ」と誇らしげに言いました。

満ち足りた気持ちでした。8年前のことが走馬灯のように私の脳裏に浮かんできました。

生まれたばかりの息子デビッドは、医師から生きながらえることはできないと言われたのです。私は、まだ彼を両腕に抱くこともできぬうちから失望感にさいなまれました。そして、なぜ自分だけがこんな残酷な目に遭わなければならないのかと、自分の運命を恨みました。その苦しみは、



夫でさえ和らげることはできなかったのです。

希望の光を見つけたのは、ちょうどそんなときでした。あの医師たちよりもっと力のあるだれかに助けてもらおうと決心したのです。私は、息子を私たちのもとに送ってくださった神様ならきっと助けてくださる、そう思いました。

私は何時間もお祈りをするようになりました。すると次第に、私たち家族の生活にも変化が現われるのではないかと思えてきました。それから2カ月半後、デビッドの容態は依然として楽観できないものでしたが、医師から退院の許可が出ました。一方ホザと私は、祈りを続けていたせいか精神的に強くなっていきました。

しかし、家へ連れて帰ってから2週間後、デビッドは再び入院しなければならなくなりました。そのうえ、医師は、もうそろそろ危ないと言うのです。長いこと切望していた変化が訪れたのは、まさにこのどん底のときでした。ホザから話を聞いた仕事の同僚が、信仰のある人の病気を癒す権能を、神様からいただいている若いふたりの宣教師を知っていると言うのです。

「言っていることに間違いがないのなら、家へ来るように言ってくれ。助けてもらわなくちゃならない。」夫は何度も繰り返しました。

数日後、その宣教師は家に来て福音を教えてくださいました。それから何週かの間、ホザも私もモルモン経や回復された福音に対して証を持つようになり、バプテスマを受けました。

兄弟たちの手の中で、息子が聖別された油を注がれ、初めての祝福を受けた光景を私は忘れることができません。私は祝福のその瞬間から、息子は神様のみ守りのもとにあり、何者もこれ以上息子の生命を脅かすことはできないと確信しました。

祝福を受けてから数日後、検査のためにデビッドを病院に連れて行きました。デビッドのレントゲン写真を見たときの医師の驚いた表情から、私は息子が癒されていることを知りました。

「まったく信じられない。息子さんの肺は完全です。病気の跡さえ残っていない。まったくの奇跡です。」医師は大声で叫びました。

「はい。本当に奇跡です。」私は目に涙を浮かべながらつぶやきました。それ以来デビッドは普通の子供と変わりなく大きくなりました。そして自分が生まれたときの出来事を知ることによって、彼の証も強まりました。

今、私は息子の輝かしい顔を見て、主が息子のために何か特別なことを計画してくださっているのではないかと感じます。デビッドは、よく将来の伝道のことについて話します。でも今は、彼が末日聖徒イエス・キリスト教会に入るためのバプテスマを受けたことで、私たちは世界一幸福な親だと思っているのです。□

生活の中からの証

教室を鎮める みたまが注がれました

ナディーヌ・ドイル

数年前、私は学校中でも非常に問題の多い、手こずる生徒たちを教えていました。彼らを教えるには問題がありすぎて、気が狂いそうでした。意気消沈の毎日、学校から泣きながら帰ったものでした。

ある日同僚の女性から、教室を鎮める力が注がれて授業ができるように、ずっと私のために祈ってくれたことを聞かされました。彼女は教会員ではありませんが、祈りの力をよく知っていました。彼女は、聖霊の導きによって私に祈りのことを告げて、私のなすべきことを知らせてくれたのだと思います。

問題にとらわれ過ぎるあまり、助けを求めて主のみもとに行くことを忘れていたことに気がつきました。それ以来、学校へ行く前に、助けと導きを求めてたびたびひざまずきました。数週間が過ぎていきました。教室を鎮めるみたまは確かに注がれました。子供たちと共に私も成長していたのです。まだ思うに任せないこともあります。彼らの扱いがかなりうまくできるようになったと思います。

私たちはだれでも、テモテにあてたパウロの訓戒に従わなければならないと思います。「わたしの按手によって内にいただいた神の賜物を、再び燃え立たせなさい。

というのは、神がわたしたちに下さったのは、臆する霊ではなく、力と愛と慎みとの霊なのである。(II テモテ 1 : 6-7)

聖霊は私たちの人生に大いなる業が起こるよう、実に素朴な方法で私たちに働きかけてくださるのです。□

救い主の計画に 喜びを見いだす

ウィルマ・ガードナー

1975年9月、「婦人の10年」という国連宣言が出された直後に、レポーターが私に末日聖徒の女性についてインタビューしてきました。彼女の質問は次のようなものでした。「あなたは神権を持つことができますか。」「モルモンの女性は解放される必要があると思いませんか。」「私は困惑して、どう返事をしてよいのかわかりませんでした。彼

意気消沈の毎日で、学校から泣きながら帰ったものでした。



女が立ち去ってから、私はその質問についてよく考え、自分自身のためにも答えを見つけようと心に決めました。

今では、あのレポーターにもう一度会えたらと思っています。私は福音が真実であることを知っていますし、また男女それぞれに異なった責任があるというこの教えに従えば喜びがもたらされることを、彼女に話したいと思っています。

既婚か独身か、豊かか貧しいか、あるいは仕事に就いているか家庭にいるかのいずれであっても、女性は世の中に優雅さと美をもたらすことに喜びを見いだすものです。このことが真実であると知りながら、人の教えに従うような軽率なことがどうしてできましようか。

キンボール大管長は言われました。「私たちの内なる楽器の弦をしっかり引き締めて、美しい調べを奏でようではないか。内なる楽の音を絶やすことのないようにしよう。父なる神が戒めを守る者たちに与えられる永遠の生命に向かって、自信と栄光に満ちた歩みを進めるために、この貴い現世の時を使おうではないか。」（「女性の選び」 p. 97）

人生における境遇がどうであろうと、私たちは世界に美をもたらす器なのです。私たちは生命の続く限りみずからの歌を歌うようにしなければなりません。自分の人生の歌を他人にまかせたり、その歌が不快な音でかき消されるようなことがあってはならないと思います。

私たちが求めるのは女性の地位ではなく、救い主のはずです。私たちの可能性についてビジョンを示し、徳高き女性になることに喜びを見いだすようにしてくださったお方こそ、救い主なのです。□

長き忍耐の時

シャロン・ドゥモールドント

教会で子供たちを敬虔にさせようと四苦八苦している長い時間が、はたして価値のあるものなのだろうかと、私はだびたび疑問に思っていました。7歳になる息子のデビッドはすぐに4歳のジェフと1歳のウエイドを笑わせたり、話しかけたり、はたまた喧嘩までさせるのです。毎週のように、息子たちを静かにさせるための方法を考えて教会に行くのですが、いつも落胆し、疲れ切った状態で帰宅するのです。怒りを抑えることができず、他人の迷惑にならないように、子供のひとりを礼拝堂から連れ出したことが何度もありました。

私は、この問題に対する自分の対処の仕方についてずっと考えていました。私がずっとしてきたしつけは、天父には受け入れていただけないものだったのだろうか。そこ

で次の断食安息日に、息子の問題点について真剣に考えて祈ってみることに決めました。

その日曜日、5分とたたないうちに、デビッドを礼拝堂から出さなければならない状態になりました。しかし私はこの問題のために断食して祈っていたので、短い祈りをして願い求めました。「お父様、彼を叱らなければなりません^{しか}が、正しい方法でしたいと思います。どうしたらよいのでしょうか。」

私が心に感じたことはこうでした。「忍耐しなさい。最善を尽くして、彼を落ち着かせなさい。」

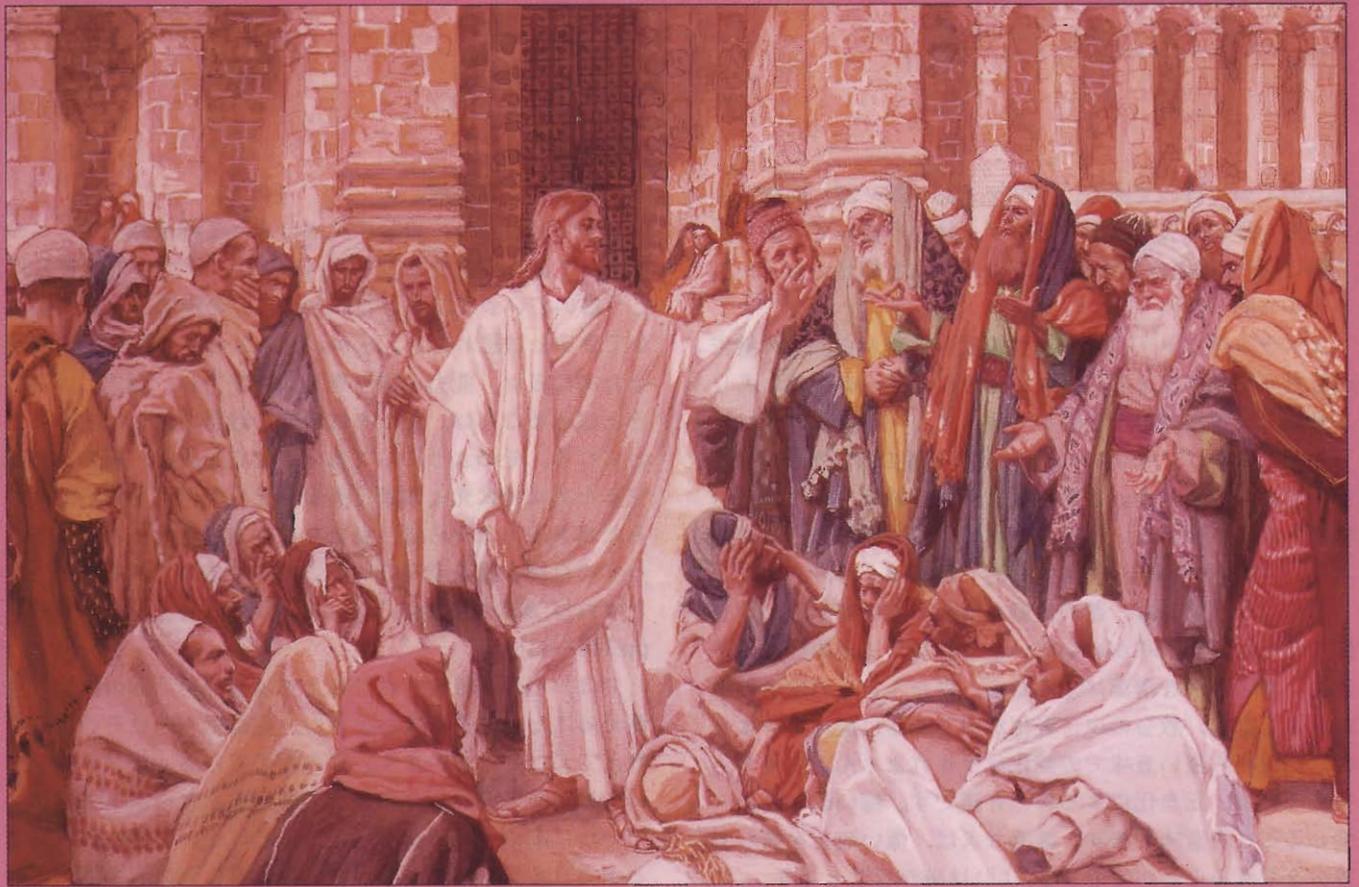
私は懸命にその導きに従い、前よりもよい方法で子供を落ち着かせることができるようにと祈りました。やがて集会の終わりに、デビッドが立っ

て自分の証を述べる姿をこの目で見ることができたのです。

そのとき私ははっきりと知りました。最初に感じたとおりにしていたら、彼はきっと証を述べるようにというみたまの導きを感じることはなかったのです。子供を育てるときにみたまに従うことが、福音のもとに子供を成長させ、さらに自分の証を得させることになることを、天父はこの経験を通して私に教えてくださったのです。

私が子供の行動のことでとやかく言いそうになったり、疑問に思うことがあったりしたときは、いつもこのときの経験を思い出すことにしています。そうすると、子供を叱るときにもやさしくなることができます。怒りのさなかにも、愛を思い起こすことができるのです。□





器の内側を清める

悔い改めの過程

ラリー・ティベッツ

聖典を読むたびに、私の心に使徒パウロの次の強烈なメッセージが浮かんできます。「さばきが神の家から始められる時がきた。」(1ペテロ4:17) 近代になって、主はこのように言われました。「応報は速に世に住める人々の上に来る……このことはわが家に始まり……。」(教義と聖約 112:24-25) では主が思っておられる裁きとはどんなものでしょうか。聖典ではなぜ清めが悪人たちからでは

なく教会から始まると言っているのでしょうか。

聖典には、主はご自分の最も大なる怒りと非難を、信心深い様をしながらその内部は悪に満ちている人々のためにとっておかれると記されています。ユダヤ人の指導者に対して、主はこのように言われました。「まず、杯の内側をきよめるがよい……あなたがたは白く塗った墓に似ている。外側は美しく見えるが、内側は死人の骨や、あらゆる不潔

なものでいっぱいである。」(マタイ23:26-27) 同様に、モルモン経の偉大な指導者モロナイはこう書いています。「神は『まず器の内部を清潔に……せよ』と仰せになった。」(アルマ60:23)

エズラ・タフト・ベンソン大管長の言葉から、この警告が私たちにあてはまることにいささかの疑いの余地もありません。大管長はこう宣言しています。「シオンの中では、万事がよいわけではない……。私たちは器の内部を清潔にしなければなりません。まず自分自身から始め、次に自分の家族、最後に教会という順で進めていく必要があります。」(『器の内側を清める』「聖徒の道」1986年7月号, p.4)

ベンソン大管長は、器の内側を清めるには悔い改めが必要であることを明らかにしています。「愛する兄弟姉妹の皆さん。器の内部を清潔にするなら、私たち自身の生活の中に、また家庭、教会の中に変化が出てくるに違いありません。高慢から良い意味での変化は生まれません。高慢から生ずるのは、正当化による自己弁護です。悔い改めとは、変わることを意味します。謙遜な人は、悔い改めを通して自分を変えることができます。これは確かなことです。」(同上, p.7)

大管長は、特に清めの必要な3つの分野を挙げています。

1. ベンソン大管長が「今の代にはびこっている罪」と指摘している性的な罪悪。予言者ジョセフ・スミスは「ほかのいかなる何よりも……誘惑、攻撃、困難の源となるもの」と言っています。(同上参照)

2. 聖典(特にモルモン経)を軽んじること。聖典を軽んじたために、教会が「のろいのもと」におかれ、「シオンの子らの上にはなお下るべき一つの懲しめと審き」が残されたのです。(同上参照)

3. 高慢、またはいかなる犠牲を払ってでも成功したいと望むこと。ベンソン大管長はこれを、「神のみこころを忘れ、自分の考えに固執したものの考え方」と断言しています。(同上参照)

器の内部を清めるために私たちが第一にすべきことは、自分自身を正直に見つめることです。私たち人間には、他人の欠点は見えても自分自身の中にある同じような、あるいはもっと大きな欠点を見逃してしまうという傾向があります。私たちは、自分の欠点から目を背けたり、周囲の思いやりある人々が気づかせようとしてくれている、自分の性格上の欠陥を認めようとしないうちがよくあります。主はこのように人々のことを思って「目があっても見えず、耳があっても聞えない」と言われたのではないのでしょうか。

(マルコ8:18参照)

しかし私たちは、自分の欠点によって絶望感を抱くようであってはなりません。ヒーバー・J・グラント大管長は、こう書いています。「私はだれもが自分の理想どおりの生活ができるとは思わない。しかし、もしもみずからを改善するために日々、能力の限りを尽して努力し、働き、いろいろと試みるならば、私たちは自分の義務を果たしていることになる。そのようにして自分の欠点を改め、弱さを克服するために神に光と知識と英知、そして何にも増して主のみたまを求めらるならば、私たちは永遠の生命へと通じるまっすぐな細い道を歩んでいることになるのである。そうだとすれば、私たちは何ら恐れる必要はない。」(『福音の標準』pp.184-85)

では、どのようにすれば私たちは自分の「器の内側」を清めることができるのでしょうか。主は私たちにその方法を教えてくださっています。私の教えているインスティテュートのクラスで、自分の長所を挙げることによって自尊心がいかに高められるか、ということについて話し合ったことがあります。その中で、自己を改善し自尊心を高めていくためのユニークな方法を提案してくれた生徒がいました。彼はまず、イテル書の12章27節を引用して話してくれました。イテル書の中で主はこう言っておられます。「もし人われに来らば、われはかれにその弱点を認めさせん。見よ、われは人を謙遜にするために人に弱点を与うれど、すべてわが前にへりくだる者には充分わが恵みを授くるにより、かれらがわが前にへりくだりわれを信する時にはその弱きを強きに変えん。」

自己評価をし、悔い改めと改善の必要な分野を見つけたら、信頼できる人の所へ行き、自己改善のための方法を教えてもらうのもいいでしょう。またこの生徒が指摘しているように、謙遜な祈りを通して主のみもとへ行き、自分の欠点を知らせていただき、それらを改めていけるよう力を願うこともできます。

スペンサー・W・キンボール大管長の言葉にあるように、キリストの誠実な弟子は、己の欠点を知り認識したら、それらを改善していく道を歩み出すはずです。(『赦しの奇跡』pp.243-46 参照) その道はときには険しく、人の助けを借りなければならぬ場合もあるでしょう。しかし悔い改めは、救いと永遠の生命に欠かすことができないものです。いつの日か主に求められて、やむを得ずに行なう罪の清めを思えば、悔い改めの過程ははるかに容易なはずです。悔い改め、生活を改善していくにつれ、私たちは家族と

してどう進歩していったらよいか、また自分の思いや家族を清め、聖典をよりよく理解し、高慢さを取り除くための目標をどう設定したらよいかを、もっとよく考えられるようになってきます。私たちは、自分のワード部やステキ部、地域社会を強めるために、教会の定員会や組織、クラスにおいても、これと同様の過程を踏むことによって成長していくことができます。

そのような目標を設定するためのひとつの方法は、清める必要のある分野をいくつか挙げてみることです。

悔い改めは、聖典が掲げるメインテーマです。この末日に直面する問題を克服したいと思う人々にとって、これは欠かすことができません。また主から必要な靈感を受けるには、道徳的に清くなければなりませんし、今の時代の世俗的な教えに対抗していくには、もっと熱心に聖典を学んでいかなければなりません。さらに、利己心を克服するには今以上に謙遜にならなければなりません。

生活の中で改善の必要な分野に私たちの注意を向けさせてくれる、生ける予言者エズラ・タフト・ベンソン大管長がおられることは私たちにとって大きな慰めです。

私は常に生ける予言者を支持してきました。それは彼らが神に召された人々であるという個人的な証を得てきたからです。ベンソン大管長に対するそうした証は、1986年4月5日、総大会の最初の部会を家族と共にテレビで見ている土曜日の朝に与えられました。ベンソン大管長の話が終わりに近づいたとき、私の心は次のような思いに満たされたのです。「確かに、主が末日聖徒に語っておられる。私たちは器を清潔にせよとの教えに従うべきである」と。□

*ラリー・ティベッツ：ソルトレークシティのソルトレークインスティテュート教師。ユタ州サンディー，グラナイトビューステキ部グラナイト第1ワード部の福音の教義クラス教師。

例

	自分自身	家族	教会
性的罪悪	ふさわしくない小説を読んだり、情欲をかきたてるテレビ番組を見たりしないようにして、自分の思いを清くする。	不道徳を美化するものを取り入れないように、私たちの見るテレビや映画に十分注意を払う。	慎みある態度、言葉、服装などに関する特別レッスンを行ない、教師定員会の若者を強める。
聖典を軽んじること	毎日就寝前か、昼食時に、10分から30分間聖典を読み、日記に感想を書く。	日曜日に、家族でモルモン経を読む時間を1時間とる。	聖典の学習を奨励するために、定員会で読書表を作成する。
高慢	より良い父親になるための妻や子供たちからの提案を受け入れる。	断食の経験をもっと意義深いものとし、助けを必要としている人々にもっと貢献できる方法を家族で話し合う。	引っ越してきたばかりの別の教会の隣人と親しくし、彼らが地域に溶け込み、ワード部の社交活動に対しても親しめるよう援助する。

まだ5歳ぐらいのときのことだったでしょうか。夕食のテーブルを囲みながら、家族が什分の一のことに話合っていました。そして私は、什分の一とは自分の全収入の10分の1のことで、主を愛する人々が捧げる物であることを教わったのです。

夕食後、私は早速それまでにためた、わずかばかりのお金を手に、主にいくらお返しすればよいか考えました。そして家中で鍵がかかるたったひとつの部屋、浴室へ行くと浴槽の側にひざまずきました。そして、4個の硬貨のうち3個を手のひらに載せて高く差しあげ、主にお受け取りくださるようお願いしました。主は必ず受け取ってください、そう思ったのです。どれだけ祈っていたでしょうか。でも、お金は手に残ったままでした。そのときの挫折感は大変なものでした。主は両親や兄たちからの什分の一はお受け取りになるのに、なぜ私からはお受け取りにならない

のだろう。祈り終えて立ち上がった私の心は、自分ではんで価値のない人間なのだという気持ちでいっぱいでした。ですから、人には何も言えません。ご存じなのは主だけでした。

それから何日かして、プライマリーの日がやって来ました。ところがその日プライマリーの先生は、その日のレッスンの内容と違うことを話したいと言いました。そういう靈感を受けたのだそうです。何のことだろうと思って聞いていると、それは什分の一をどう納めるかという話でした。驚きました。でも、私がお祈りしたのは、什分の一を納める方法ではなく、主が私の祈りを聞かれ、それにこたえてくださったということでした。主が私を愛してください、私は主の前に価値ある者だということ。私はそれを学んだのです。

この出来事は、私にとってあまりにも神聖で、それから30年あまりの間だれにも話すことはできませんでした。60年たった今日でさえ、涙なしではお話しできません。もちろんあのプライマリーの教師にも話しませんでした。自分が主と生徒であった私との橋渡しになったことを知らずに世を去った彼女には、本当に申し分けないと思っています。□

祈りの答え

アーテル・リックス



家族で聖典を学ぶ

家族と一緒に福音を
学ぶことによって、
愛と感謝の気持ちが
養われます。



末日聖徒の両親は、家族で聖典を学ぶことがいかに重要であるかをよく知っています。家族が共に福音を学ぶことによって、お互いの中に愛と感謝の気持ちが生まれるだけでなく、子供たちに生涯を通じてより頼むことができる真理の基盤が形成されるのです。

残念ながら、子供たちの多くは聖典の勉強よりもテレビを見たり、友達と遊んだりすることのほうが楽しいようです。しかしそれも変えることができます。両親がその気になり知恵を働かせるならば、家族の聖典に対する興味を増し、各人が聖典の勉強を習慣とすることができるように仕向けることができるのです。

そのためにはまず、両親みずからが聖典を学ばなければなりません。最良の教師は常に模範です。聖典を学ぶことを習慣としている両親の言葉は、子供たちに対して説得力を持っています。確かに、毎日聖典を学ぶための時間を取ることは、たやすいことではありません。ほかのことも制約を受けるでしょう。テレビを見る時間を減らす必要があるかもしれません。教会や学校、地域の活動も思うようにできなくなるかもしれません。また今よりもっと早く起きるなど、家族の生活環境にも変化が生じるでしょう。

そのような努力は必ず実を結びます。子供たちの生活に良い影響を与えたいのなら、まず両親が生活の中で福音を実践していかなければなりません。

家族で福音を学ぶための4つの鍵

1. 約束する。体重を減らすことでも学校を卒業することでも、福音の勉強に限らず何かを行なおうとするときには、やり遂げるのだという気持ちが大切です。家族の中でどのように福音を学んだらよいか話し合ってください。アイデアがひとつにまとまったら、一人一人にその方法に従うという約束をしてもらってください。それをしないと、いくら努力しても十分な成果は得られません。

2. 続けて行なう。十分に計画された活動が定期的に行なわれるならば、これといった準備もせずその時々思いつきで行なわれる活動よりも、はるかに効果が上がります。決められた計画に従うならば、学習に対する意欲も増し、またそのほかのことに煩わされずにそれに専念できるようになるでしょう。家族にとって最も勉強に適した時間帯を選び、いつもその時間に行なえるようにしてください。

3. 各人の個性を尊重する。ハワード・W・ハンター長老は、「賢い父、母が子供たちを集め、共に聖典を読み、その物語や思想をそれぞれの理解力に応じて自由に話し合うとき、家族は大きな祝福を受ける」と言われました。『聖典を読む』「聖徒の道」1980年3月号、p. 88。下線筆者）同じことを学んでも、必ず一人一人が違う反応を示すはずですから、家族全員に合った福音の学習法などはありません。しかし、みんなをよく話し合い、よく考え、祈って導きを求めるならば、それぞれの家族に最もふさわしい方法が見つかることでしょう。

年の離れた子供がたくさんいるある家庭では、いろいろな方法を試してみました。食事の最中や食後、あるいは夜寝る前に、あるいは週末に、といった具合です。でもどれもうまくいきませんでした。そして最後に行き着いたのが、朝みんなが出かける1時間前に朝食をとるという方法です。これによって、家族全員でそろって食事をすることもでき、また毎日家族で福音の勉強をすることもできるようになったのです。その家の母親は感謝に満ちた様子で次のように言っています。「私たちは前にも増して幸せな家族になりました。一緒に話す時間が増え、意義ある話し合いができるようになりました。また家庭で福音を学ぶことによって、一人一人が教えをよく理解し、自分の生活の中に取り入れることができるようになったのです。」

4. いろいろな工夫をする。家族の興味や関心を引きつけておくことはとても大切です。小さな子供たちは自分が実際にしたこと（たとえば絵をかいたり話をしたりすること）を一番よく覚えています。その次が目で見えたもの（写真やフィルムストリップなど）で、さらにその次が耳で聞いたもの（読んでもらったものや録音されているもの）です。たとえばキリストの誕生について教えたいときは、子供たち一人一人に何かの役を割り当てて簡単な劇を行ない、そのあとで聖典から話を読んで聞かせれば最も効果的でしょう。

勉強の方法

1. 声に出して読む。子供たちは両親が聖典を読んで聞かせてくれるのを耳にしながら、聖典への愛着を深めていきます。かつてプリガム・ヤング大学で英語を教え、現在ロンドン神殿の神殿長を務めているアーサー・ヘンリー・

キング兄弟は、次のように言っています。「私たちが子供たちに読んで聞かされるもので最も大切なものは聖典です。子供のころ聞いた声はずっと耳に残っているものです。両親はできるだけ早い時期から子供たちに聖典を読んで聞かせるようにすべきです。父親や母親が愛情に満ちた声で聖典を読んでくれるのを聞きながら育った子供は、最も好ましい状態で聖典を理解し、それを愛するようになるでしょう。子供はそのような両親の声を通して、天父のを感じることができるようになるのです。」（「豊かな心」pp. 221-22）

聖典は始めから順々に読むこともできますし、あるいはテーマごとにいろいろな所を読むこともできます。子供がまだ小さければ、お気に入りの話を何度も何度も繰り返し読んであげたらよいかも知れません。そうすれば、聖典の言葉の中に両親や天父の愛を感じるようになるでしょう。このような経験が多ければ多いほど、子供たちは聖典に親しみを覚え、内容を理解し、喜びを見いだすことができるようになります。

2. 暗唱する。声に出して読む以外によく行なわれるのが、聖句を暗唱することです。小さな子供たちでも短い節なら暗唱できますし、なによりもそれを成し遂げたときに得られる満足感が魅力です。

3. 調べる。聖書辞典、聖句索引、(聖書)地図などがあれば、聖典を読んでいるときに出てきた重要な言葉の意味や、同じ言葉が出てくる箇所、地理的な位置などを調べることができます。子供たちがこのような資料になじんでくれば、聖句に対する理解も増し、その結果、そのような聖句を自分たちの人生の大切な指針とすることができるようになるでしょう。

4. テープに録音する。可能であれば両親は子供が聞くことができるように、福音に関する話をテープに吹き込んであげたらよいでしょう。忙しい親や長期間家を留守にしなければならない親にはこの方法は特に有益でしょう。

5. 話し合う。教育の現場で働いている人々は、現代の生徒たちは自分の感じたものを周りの人間に対してははっきり表現することができない、ということに危惧の念を抱いています。家族で話し合うことは、福音に対する理解を増し加えるだけでなく、このような能力を養ううえでも絶好の機会です。話し合いのテーマとして次のようなものが利

用できます。

- 教会のレッスンやセミナーで学んだ概念
- 聖餐会やいろいろな大会でなされた説教
- 「聖徒の道」の子供のページにある話
- 健全なテーマを扱った詩、物語、本など
- 福音に関係がある時事の話題

6. 分かち合う。年齢や能力に応じて、家族一人一人に福音について学んだことを話してもらうようにしたらよいでしょう。たとえば次のようなことが考えられます。

- 子供たちに家庭の夕べのレッスンを手伝ってもらう。
- 家族一人一人に福音に関する短い話をしてもらう。
- 家族の中のだれかに、聖典や教会歴史の中から好きな話を選んでそれを自分の言葉で紹介してもらう。
- 家族の中で教会で教師の責任を受けている人がいたら、家族を相手に予行練習を試みるよう勧める。

7. 家族の活動を計画する。以下にいくつかの提案をあげます。

- 自分の歴史や福音に関することを扱った詩を書くように勧め、できあがったものは家族の歴史に編入する。
- 標準聖典に登場する人物や出来事、あるいは福音の原則を使ってクイズをする。
- 家族が聖典に出てくる話や歴史上の出来事、あるいは聖徒たちの生活ぶりなどについて撮った写真や、それらをテーマにして作った紙や粘土細工などを集めて、家族の作品展を開く。
- 讃美歌と聖句とお話による家族集会を計画し、年配の人や教会員でない人たちを招待する。

家庭の夕べを活用する

家庭で福音を学ぶ最もよい機会は家庭の夕べです。家庭の夕べによって、子供たちがひとたび福音を学ぶおもしろさを知ったなら、それ以外のときにも、いつも福音を学びたいと思うようになります。

物理学や数学、その他の学問と違い、福音の勉強は、事実だけを追い求めていたのでは効果がありません。福音はみたまによって教えられなければならないものだからです。教える側の福音に対する知識と霊性がバランスよく保たれているとき、子供たちはそこから多くの恵みを受けることができます。□

「神のみこころです。」それが牧師の言葉でした。



「父よ、

いすこ 何処に」

ジェリー・ブルーイン(聞き書き：ハーマン・B・ホーマン)

世の煩いから逃れて、体を休めたいときに必ず座るお気に入りの椅子とか、必ず行く特別な場所などがあるあなたにはありますか。私にはあります。古い揺り椅子ですが、それに座ると私が行きたいところはどこへでも連れて行ってくれるような気がします。子供のような自由も大人の円熟も味わうことができますし、現在だけでなく未来の悩みまでも解消できるような気持ちになるのです。

その椅子に腰をおろしているときに、私はとても好きです。ある寒い晩のこと、冷たい霜でできた窓の模様を見つめながら、私は昔のことを思い出していました。

「デビッド、ボイド、帰っていらっしやい。夕食の時間ですよ。」

返事がありません。妻が私にも探すのを手伝ってほしいと言いました。

「デビッド！ ボイド！ 返事をしなさい。ふざけるのはやめにしなさい。どこにいるんだい。」

ふたりの姿が見えなくなって、わずか10分でしたが、何回呼んでも返事がないので、私たちはだんだん心配になってきました。3歳と4歳になるデビッドとボイドは、ミシガン州マニスチーのマニスチー川のほとりにある我が家の庭で遊んでいたのです。それから1時間も探しましたが、手がかりは何もありません。やがてパニック状態に陥った私たちは、警察に電話をした方がよいだろうという結論に達しました。

30分もしないうちに、警察や消防署、ボーイスカウト、友人の一团が付近の捜索を始めました。午後4時ごろにな

って、「州警察に連絡して、シェパード犬のサーバーを連れてきた方がよいでしょう」という報告が警察から入りました。

サーバーは綱をぐいぐい引っ張りながらやってきました。階段を駆け上って子供たちの部屋に入ると、ベッドに飛び乗りました。訓練士はサーバーの鼻に子供たちの洋服をこすりつけて臭いをかがせました。

「綱はずして。」訓練士が命令すると、サーバーは転がるようにして階段を駆け降りていきました。「サーバー、ふたりを見つけてくるんだ。」そう命令された犬はドアの外へ走って行きました。

サーバーは家や庭をかき回ってから通りの向かい側の木立へ走って行き、それから急に南の方へ向きを変えました。

「やめてくれ。川じゃないだろ。」吠えながら走る犬のあとを追いながら、私は叫んでいました。それでも犬は一向に止まる気配はなく、川岸までまっすぐに走っていきました。そこで私たちは、氷の上まで30メートルほど続いている小さな足跡に気がついたのです。無言の証拠がそこにありました。氷に大きな穴が開いていて、下には薄暗く冷たい水が流れていました。

おぼれた？ 死んだ？ あの何の汚れもない子供たちが死んだって？ そんな思いが頭の中を駆け巡って、私は言葉が失ってしまいました。私はその恐ろしい光景から目をそむけずにはられませんでした。「畜生、なんてことだ！」泣きながら走りました。悲惨な場から一刻も早く逃れたかったのです。

どれほど走ったかわかりませんが、気がついたときには、

古くからよくしてくれている親友の家にはいました。30キロも走ったことになります。でも、そこにいても少しも慰めを得ることはできませんでした。

次の朝、私は川へ戻ってみました。州警察の潜水夫が悲しい作業をしていました。ゴムの潜水服を身につけた潜水夫が、暗く冷たい水中の搜索を続ける姿を見つめている一刻一刻が、私には悲しい結末よりもずっとつらいものでした。

3時間に及ぶ搜索の末、ついにひとりの潜水夫が叫びました。「あった。」

潜水夫は「いた」とは言いませんでした。彼らにとって物言わぬ幼い体は物体でしかないのです。待機していたボートに吊り上げられたのは、私の血を分けた柔らかく温かい子供ではなく、硬直した小さな体でした。体は凍りつき、右腕を伸ばして手を握りしめていました。デビッドでした。凍った体が悲劇を物語っていました。どちらかと言えば冒険好きなボイドの方が最初に飛び出して行って川にはまり、後を追いかけたデビッドも、ボイドを助けようとして水の中に落ちてしまったのでしょうか。凍てついた水の中では、死は一瞬の出来事でした。

苦悩に満ちた数分が過ぎて、2度目の声があがりました。「ありました。」悲しみに打ちのめされた私には、その後の日々は夢を見ているようで、葬儀の手配が進められていく中でかろうじて現実を認識する有様でした。葬儀での話も、「神のみこころです。私たちには理解できないことです」と言う牧師の言葉以外には、ほとんど覚えていませんでした。

そんな牧師の言葉が何の慰めになるというのでしょうか。その神のみこころとやらを教えてほしいものです。「罪もない子供を殺す神なんて、今もこれからも私の味方ではない。」私は牧師にそう言ってやりました。

悲劇はときとして夫婦の絆を強めることがあります。私たちの場合は違いました。苦悩に打ちのめされた私には、どんな人間関係も受け入れられなかったのです。妻と私は離婚しました。それ以来、私はどこへ行っても人を避けるようになりました。私の人生は怒りそのものでした。

私の前で車を違法に方向転換した運転手には、無理やり車から引きずり下ろして殴りつけましたし、飛行機に乗り込む順番を待っていて、スキーの板で胸を突かれたときには、相手が2メートルもある大男なのに、向かっていきました。法的な制裁の回数も、保釈金を支払うために借りたお金も、だんだん増えていきます。まったく怒りと暴力の人生でした。

その後、ありきたりの方法で世間からの逃避をはかろうとしたのですが、心の痛みは依然として消えませんでした。そして、あの恐ろしい光景を思い出すたびに涙に泣いていました。私の人生と幸福をめちゃめちゃにした神を責め続けたのです。そうやって何年間も挫折感にとらわれていた

私は、やがて再婚し、転居しても一向に平安を得ることはありませんでした。

ある晩仕事から帰宅した私は、玄関のところでふたりの若者に会いました。彼らは末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教師であると告げました。私は片一方の若者の襟首をつかまえて、我が家の敷地から出て行くように命じました。それから声を荒げてこう脅したのです。「二度とこの近所に顔を見せるな。今度来たら、ただではおかないぞ。」彼らはあわてて立ち去りました。

そんな出来事はいつものことなので、私はすぐに忘れてしまいました。次の週、妻と私が夕げの食卓に着こうとしているところに、玄関のベルが鳴りました。対応に出た私は、1週間前に追い出したあのふたりの若者がそこに立っているのを見て、本当に驚きました。私が口を開く間もなく、彼らのうちのひとりが私をまっすぐに見詰めて、真剣な顔でこう言うのです。「私たちの話を聞きたくないと思っていらいっしょのことはよく承知していますが、救い主イエス・キリストからの大切なメッセージをお伝えしに来ました。救い主はあなたが聞いてくださることを望んでおられます。」

謙虚な中にも自信に満ちた口調に驚いて、私は話に耳を傾けました。私が怒りや苦悩をぶちまけても、彼らはじっと聞いてくれました。私の思いをわかってくれているようでした。ふたりは「自由意志」について話してくれました。私にもうなずけるところがあり、こうして私の真理の探究が始まったのです。

私は毎週の宣教師の訪問を心待ちにしました。私の魂は、自分が何者なのか、どこから来たのか、なぜここにいるのか、そして死後はどうなるのかという疑問に対する答えを渴望していました。ふたりの宣教師は聖典を使って私の理解の目を開かせてくれました。こうして、傷ついていた私の心が癒され始めました。

彼らは、それまで答えられることのなかった私の疑問に答えてくれたのです。小さなふたりの息子はあまりにも幼くしてこの世を去りました。でも、彼らはこの世に生まれるという特権を得るために、ここに来ることを選んだのだということがわかってきました。デビッドとボイドは、無慈悲にも人を溺れさせる復讐の神の犠牲者では決してない。私の息子のデビッドとボイドになるずっと以前から、ふたりは偉大な計画に参加していた。この世の生涯は彼らの永遠の進歩の一段階にすぎないのだ。この壮大なビジョンは私の心を大きく揺り動かししました。

今でも息子たちのことを思うと涙があふれてきます。しかしそれは怒りや憎しみの涙ではありません。愛と理解の涙です。救いの計画を知ったことで私の人生は変わりました。そして、この私も主を信ずる者のひとりとなったのです。□



復活に関する ジョセフ・スミスのお教え

神はエノクに、メシヤを世の始めからほふられた小羊として捧げて備えたもうた贖いについて、また贖いにより救い主が栄光の内によみがえり、全人類も復活して、肉体が元どおりになることをはっきりと示された。（「予言者ジョセフ・スミスの教え」p.84）

もし続けて忠実に生活を送るならば、失ったものはすべて復活のときに補われ完全になるであろう。全能者の示現で、私はそのことを知った。

私が死よりも苦痛に感じているのは、靈魂必滅の思想である。もしも私が父や母、兄、それに妹や友人たちと再びみえることができなかつたら、私の心臓は瞬時にして張り裂け、私はそのまま死んでしまうことであろう。

私には復活の朝に友人たちと再会できるという期待

がある。ために私の心は喜び、人生の悪にも対抗できるのだ。それは彼らにとってははるかなる旅のように思われる。しかし彼らが戻ったとき、私たちはさらに大きな喜びをもって再会することができるのである。

神は天より御子を遣わし、復活の教義を啓示された。私たちはこの地に葬った人々が再び神の力によってよみがえり、大いなる神のみたまを身にまとって生かされるようになることを知っている。私たちが彼らを葬るか、あるいは自分自身が彼らと共に葬られるかどうかは問題ではない。これらの真理を心に留めておこう。私たちは今ここからでも喜びを味わい始めることができる。そしてその喜びはいつか完全なものとなるのである。（「教え」p. 295□



家庭訪問メッセージ

「愛は高ぶらない、誇らない」

(Iコリント13:4)

目的：高慢に陥ることなく、義を求める

高ぶるとは、持ち物や自分が成し遂げたこと、また交友関係、自分の行ないなどに慢心して自画自賛することです。救い主はこの罪について教えるために、パリサイ人と取税人のたとえ話をされました。

「ふたりの人が祈るために宮に上った。そのひとりパリサイ人であり、もうひとり取税人であった。

パリサイ人は立って、ひとりてこう祈った、『神よ、わたしはほかの人たちのような貪欲な者、不正な者、姦淫をする者ではなく、また、この取税人のような人間でもないことを感謝します。

わたしは一週に二度断食しており、全収入の十分の一をささげています。』

ところが、取税人は遠く離れて立ち、目を天にむけようとしないうちに、胸を打ちながら言った、『神様、罪人のわたしをおゆるしてください』と。(ルカ18:10-13)

イエスは、神に義とされたのは、パリサイ人ではなく、取税人であったと教え、さらにこうつけ加えられました。「おおよそ、自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるであろう。」(ルカ18:14)

このパリサイ人には、ふたつの重大な過ちがありました。まず彼は自分自身の行ないを誇っていました。そして、自分自身が神であるかのように、自らを義としたのです。私たちが義とされるかどうかを判断できるのは神以外にありません。

「高ぶり」の最たるものが、高慢の罪です。エズラ・タフト・ベンソン大管長は次のように言っています。「高慢の反対は、謙遜、柔和、従順(アルマ13:28参照)、あるいは素直さと言うことができます。……高慢は数多くののろいの元となり、謙遜さは豊かな恵みをもたらします。」(「聖徒の道」1986年7月号, pp.6-7)

高ぶりはほかにも様々な形をとって表われます。集会、クラスなどで人の話の腰を折ったり、私語などをするのは、人を軽んじている証拠です。また約束の時間に遅れるのは、自分の時間や都合を優先させていることの表われです。

みずから得たのではないにもかかわらず、それを自分の誉れとするのもやはり「高ぶり」です。ことがうまく運ばないときには神のせいにし、順調なときには、才能、技術、財産などが主の賜であることを忘れ、すべてを自分の誉れ

にしてしまう人がいます。

聖典には「およそ人何事にも神を怒らせずまたは何事にも神の怒り燃ゆることなし。ただすべての事の中に神の御手のあることを告白せず、その誠命に従わざる者に神の怒りあり」(教義と聖約59:21)と書かれています。真の謙遜さは、自分が行動またすべての点において、神に依存しているという認識から始まります。

そのような謙遜さは、私たちが救い主が示された愛と奉仕の模範に導きます。スペンサー・W・キンボール大管長はその模範を示してくださっています。彼は1974年の4月に大管長としての支持を受けましたが、そのすぐあとに家族の食事会を持ちました。大管長は教会の保安係の人が自動車の中に待機しているのに気がつくと、食事をひと皿盛って、彼の所へ持っていきました。キンボール大管長は忙しいスケジュールの中でも、自分のことだけを考えて人に仕えることを忘れてはしませんでした。それどころか自分の新しい責任を、人に仕えるための機会と考えたのでした。

私たちは主が示してくださった愛や自分が主に頼る存在であることを認識し、人々への奉仕に全力を尽くすようになるにつれ、愛についても理解できるようになります。使徒パウロはその愛について、「寛容であり……情深い」と言っています。(Iコリント13:4。モロナイ7:45参照)そうすると今度は、アンモンのように行動したいという望みが出てきます。「私は自分のことを誇らないでただ私の神のことを誇る。それは神のたもう能力によって何事もすることができからである。」(アルマ26:12)

この力があれば、福音を宣べ伝え、聖徒を全き者とし、死者を贖うことにより、人々をキリストのみもとへ招くという、教会の使命達成のために大きな働きができるのです。

訪問教師への提案

1. どうしたら「すべての事の中に神の御手のあることを告白」できるようになるかについて話し合う。
2. 実際にどのようにして人々への奉仕に熱心に努めることができるようになったかを、訪問先の姉妹と話し合う。(「家庭の夕べアイデア集」pp. 26-31, 54-57, 65, 108-111, 204-205, 258-60参照)

探求の果てに

キャロル・セイヤーズ・フルウッド

私の父母は、それぞれ異なった教会に所属していましたが、結婚するときに、将来、自分たちの子供には、どちらかの宗教への入信を強制するのではなく、できるだけ子供たちの意志と選びによって真理を見いだせるように助けようと決心したそうです。

私は、十代の前半には4つの違った教会に行ってみまし

た。また親戚の人が行っている教会にもよく行っていました。

しかし14歳になったとき、友達のお母さんが亡くなったのを機に、人生の目的について考えるようになりました。私は教会で過ごした日々を思い巡らし、私の知識の限りを尽くして、この地上に唯一まことの教会というものがある



のであれば、それを探し出そうと決心しました。

私は前に通っていた教会に戻ってみました。礼拝には喜びを感じましたが、疑問を解こうとして尋ねると、ただ出席するだけでよい、そのような疑問を抱く必要はないと言われるのでした。もし愛する天父が本当に存在するなら、地上の肉親の父と同じように私を見守り、私が真理を見いだし、成長するのを望んでおられるはずだと私には思えてなりませんでした。私には神が、ご自身について何も知らされず、私を無知のままで放っておかれるとはどうしても信じるができなかったのです。

私は前に通っていたほかの教会へも行き、またキリスト教と同じように、イスラム教、ユダヤ教も、今までにないほど熱心に研究しました。これらの宗教には、素晴らしい教えがたくさんありましたが、完全な真理には何か欠けているような気がしました。

両親は、いつも私の探究を励まし見守ってくれていました。ひとたび私がある特定の宗教を研究し始めると、両親は私を教会へ連れて行くのをやめ、私が自分自身で道を見いだし、何が私にとって大切であるかを探し当てるの見守っていてくれました。

ある日の午後、私たち家族は、郊外にドライブに出かけました。私たちは「末日聖徒イエス・キリスト教会」と書かれた教会堂の前を通りました。父が冗談に「君がまだ行ったことのない教会だね」と言いました。私が父にどんな教会かと尋ねると、これはモルモン教の教会であると教えてくれました。しかし教会の前には、モルモンという名前は出ていません。「モルモンというのはニックネームだよ。でも行くのはやめておきなさい。とても風変わりな教会らしいから」と父は言いました。

教会の建物から私の家までおよそ4マイルありました。私は彼らの信条を知ろうと手紙を書くことにしました。数週間たって、支部長から教会の集會に出席するようにとの招待の手紙が来ました。私はその手紙を読んだとき、かつて感じたこともない何か特別な気持ちを感じ、心が躍りました。でも少し尻込みする気持ちもあって、私はこのことについて、今こそ天父に尋ねるべきだと思いました。

私はそれまで「主の祈り」を唱える祈り方しか知らず、何と言って祈ったらいいかわかりませんでした。とにかく主が私に道を示してくださるようにと、率直な祈りを捧げました。祈り終わると階下で私を呼ぶ母の音がしました。行ってみるとふたりの男性がイスに座っていました。彼らは、私の家族に末日聖徒イエス・キリスト教会について説明するために来たのだと言うのです。

母は彼らに、私が教会にあてて書いた手紙の返事として

我が家を訪ねてくれたのかと尋ねましたが、彼らは手紙については何も知りませんでした。

私はイスに座って3人の話を静かに聞いていました。母の言っていることがこれほど非論理的に思えたのは初めてでした。それに比べてそのふたりの男性の話すことはすべて理にかなっていました。その夜、私は主が私に真理を授けてくださったことを知り、感謝の祈りを捧げました。

次の日曜日、私は末日聖徒イエス・キリスト教会の集會所へ自転車で行きました。私はひとりで教会堂に入るのが怖くて、だれか来た人に一緒に入れてくれるように頼もうと思い、待っていました。やがて教会堂の中に入ったとき、私は何かとても温かいものに包まれるのを感じました。あの宣教師たちはすぐに私を見つけてくれました。

数週間がたち、私は宣教師たちから福音を学び、バプテスマのチャレンジを受けました。私はすぐに受け入れましたが、両親はすぐには許してくれませんでした。私はまだ16歳なので本当に理解しているとは思えない、18歳になってもまだ今と同じようにバプテスマを受けたいと思っているなら許可しようと言うのでした。

18歳の誕生日の朝はとても美しく晴れていました。私は目を覚まし、その日の夜7時30分にはバプテスマを受けられること、そしてそれが誕生日のその日のうちで最も素晴らしい時間であると思いました。私はプレゼントを開け、そして学校の授業に出かけました。

お昼には、家族そろってレストランで食事をしました。食べ終わってすぐに私は体の具合が悪くなり、おなかがひどく痛くなりました。母は私にすぐ家に帰って休むように言いました。私は痛みがあまりにも激しくて眠れませんでした。私はひざまずいて祈りました。主にこの痛みを取り除いてくださるよう、そして待ちに待ったバプテスマが無事に受けられますようにと嘆願しました。部屋は真っ暗になり暗黒が満ちていました。私は恐怖におののき、この恐れを取り去ってくださるよう、天父に助けを求めて叫びました。気がつくと、すでに3時間が過ぎていて、姉が私のそばに立っていました。姉は私にバプテスマの準備をするように言いました。窓の外を見ると、太陽がさんさんと輝いています。私は、祈りにこたえてくださった天父に、そして家族に感謝し、教会へ向かいました。

私のバプテスマは、人生のうちで最も美しい経験のひとつとなりました。バプテスマを受けてからは妹に教会のことを話すようになりました。妹は私が伝道から帰った後に、バプテスマを受けました。両親はまだ教会員ではありませんが、私は両親が私に真理を求める望みを与え、それをかなえる方法を教えてくれたことに、心から感謝しています。□

時

レアード・ロバーツ



ゆるやかな流れの川のほとりに建ち並ぶ家々。私たちはそこに続く道を下って行きました。晩秋のよく晴れた暖かな日でした。木々の葉は、あざやかな黄色や黄金色にその色を変えていました。私が初めて、宣教師として戸別訪問をした日のことです。

「あなたの番ですよ。」ヒギンズ長老は、微笑んで言いました。

川べりにある小さな家でした。ウォータースポーツの用具が壁に立てかけてあります。私は咳払いをし、しっかりとドアをノックしました。

「私はロバーツ長老です。そしてこち

らはヒギンズ長老です。救い主についてお伝えしたいメッセージがあります。」家の人が出てくるのを待っている間、練習してみました。

ドアが開いて、スクリーンドアの向こうに、年のころなら17から20歳ぐらいで目は青く、長い金髪のとてかわい少少女が水着姿で立っていました。言葉が——飛行機の中や伝道本部や宣教師のアパートで、そしてこの家までの3マイルの道のりを歩きながら、何度も何度も丹念に繰り返し練習した——その言葉が、完全に頭の中から消えてしまいました。

「あっ。」これが私の口から出た唯一の言葉でした。

ヒギンズ長老は、にやっと私を見て、彼女の方を向きました。

「私たちは、この地区を伝道している者です。イエス・キリストについてのメ

ッセージをあなたとご家族にお伝えしたいと思います。」彼は、「アメリカにおけるキリスト」というパンフレットを彼女に渡し、彼女の家族に会う約束を取りました。

ヒギンズ長老は、伝道前に大学でミュージカルを学んでいました。私がこの地区にやって来た最初の日、宣教師の準備の日で、コインランドリーで洗濯をしながら、ヒギンズ長老はそこにいた女性たちにポピュラーソングを歌って聞かせました。彼女たちはとても喜びました。洗濯物が乾くまでに、彼は5つの約束を取ったのです。戸別訪問の玄関先でも、彼は人々に向かって歌うことがしばしばでした。私はもう少し人に対して控え目でした。恥ずかしがり屋でこわがりと言ったほうがより近いのですが。

「次の2軒は私が受け持ちます。」ヒギ

ズ長老は、そっけなく言いました。彼はさらにふたつの約束を取り、また別の女性に歌を歌いました。

「もう一度試してみますか。」ある教会のそばの家々へ近づくと、彼は尋ねました。

私はドアをノックし、待ちました。牧師の服を着た背の高い男の人がドアを開け、私たちに微笑みかけました。

「何かご用でしょうか。」とても丁寧な英国なまりの言葉でした。彼は、あきらかに私たちが何者か知っていました。

つばを飲み込み、後ろへさがったときに、郵便受けがちらっと目に入りました。「牧師リチャード・カット博士」とありました。

この人に何と言えがいいのだろう。どうしたら彼の信じていることに対抗できるだろうか。私は、口の中で短く祈りました。ヒギンズ長老が、私たちの間に割って入ろうとしているのがわかりました。

不思議なことに、人は数秒の間にたくさんのお話を思い出せるものなのです。私は、モーセと燃えるしばの話をしてくれたプライマリーの教師や、ジョセフ・スミスの最初の示現の重要性を説明してくれた日曜学校の教師、山上の垂訓を教えてくださいました。私は、ユタの南部の小さな町に育ちました。私の教師は、だれも博士号の肩書きなど持ってはいませんでした。だれひとりとして、カット師がおそらく読むような、ギリシャ語やラテン語を読んだりしません。でも、そのようなことは問題ではありませんでした。彼らが知っている事柄の方がはるかに重要だったのです。

「私はロバーツ長老です。」私は初めて今まで自分に教えられてきたことや、自分がここで教えるべきことの力強さと重要性を感じながら言いました。「こちらはヒギンズ長老です。私たちは、あなたにイエス・キリストの福音についてお伝えしたいと思います。」

カット師の表情に変化が起きました。少し驚いたように見えました。「お入りなさい。」彼は微笑んで言いました。□

「主が方法を備えたもう」

キャロリン・シュナイダー

「そんな不公平だわ。」だれに言うともなくつぶやいた私の言葉を、親友のマリアが聞いていました。

「何が不公平なの。」彼女は尋ねました。学校の帰り道を彼女と一緒に歩きながら、私は話し始めました。「私は4人兄弟の一番上だけど、いつも男の子がするようになってひとつも覚えようとしなかったわ。お皿を洗うのは絶対に嫌だし、それでお母さんと口げんかするのも嫌なの。」

私はうんざりして小石をけ飛ばしました。自分の家族に問題があったからです。

「それだけじゃないの。」私は文句を続けました。「私の両親は一緒に住んでもいないのよ。」マリアは、しばらくだまり込んでしまいました。彼女は最近、彼女の行っている教会について私に紹介してくれたところでした。あとになって話してくれたのですが、そのころのマリアは、自分とは違う家庭環境に育った人と友達になれるかどうか自信がなかったそうです。でもマリアは、すぐにある決心をしました。

しばらく歩き続けてから、マリアは、私の態度の悪い点を指摘するのではなく、聖句を用いることにしたのです。マリアは、ニーフアイの言葉を引用して言いました。

「そこで私ニーフアイは、私の父に『私は主が命じたもうたことを行って行こう。』

私は、主が命じたもうことには、人がそれを為しとげるために前以てある方法が備えてあり、それでなくては、主は何の命令も人に下したまわらないことを承知しているからである』と言った。」(Iニーフアイ3:7)

モルモン経をまったく読んだことがなかった私には、教会の聖典からの引用は耳慣れないものでした。でもマリアは私に聖句の言葉に従うように勧めてくれました。私が十戒を学んでいて、その中の両親を敬うという戒めをよく知っているということが、彼女にはわかっていたのです。彼女は、主が助けてくださるので私はその戒めを守ることができ、主が方法を備えてくださると信じるなら問題を解決できる、と言ってくれました。

4年たった今、私は父とも母とも、とても良い関係になり、楽しく暮らしています。私はまた、教会の会員にもなりました。最初家族の反対に会いましたし、小さな証しかありませんでしたが、証を強めるよう努力し続け、両親が私のバプテスマを許可してくれるのを待ちました。

気落ちしたり、あきらめたりせずに、どうしてそのような長い期間、信仰を持ち続けることができたのでしょうか。それは、主を信頼したときに、主が私に戒めを守ることができるようにと、方法を備えてくださったからです。□

「私は主が命じたもうたことを行って行く」(1ネーファイ3:7)

Handwritten Japanese text, likely a translation of the scripture, is visible in the upper right portion of the illustration. The text is faint and partially obscured by the figures.



高校最後の年が始まったばかりでした。私は期待で胸がいっぱいで、何もかもがこれからのすばらしい年を暗示しているかのように思えました。

私は、初めて学校の授業に興味を持ち、今までにない良い成績をとろうと決心しました。また、私はセミナーのクラス会長に召されたばかりでしたし、祭司定員会の第一副会長の召しも受けていました。新しい趣味として写真撮影も始めました。また、アルバイト先の友達に教会のことを紹介することもできました。すべてが活気に満ち、生き生きとしているように思えました。

でも、多分その学年の初めに起こった最も重要な出来事は、私が聖典を毎日30分間読むという決心をしたことです。

私は新約聖書を読むことにしました。読み始めるとすぐに夢中になってしまいました。毎日学校から帰ると教科書をわきに追いやり、自分の部屋の机に座って聖典を取り出すのです。毎日イエス・キリストの生涯について読むことは、確かに私の霊を鼓舞するものでした。しかし、このようにして第1週目が過ぎたときに、問題は起こったのです。

その日の午後、私は学校から帰ると、聖書のマタイ伝を開き、読み始めました。でも何か変でした。靈感を感じなかったのです。しかも何も読み取ることができない状態でした。私は、ただ文字を目で追うだけで、一字一句に身を入れることができなかったのです。読むのをやめて、開いてあるページから顔を上げました。

「待てよ。」私は心の中で言いました。「何が間違っているのだろうか。」すると突然、学校での長い一日に起きたささいな出来事が頭に浮かんだのです。教会員ではない数人の友人と私は、のらりくらりと思いつくままにあれこれ雑談をしていました。すぐに、そのときの下品な話や冗談が思い出されました。私もその中にいたのです。私は笑って、みずからふさわしくないことを言いさえたのです。

キリストの生き方は、私の行ないに変化をもたらしていなかったのです。聖書の上に頭を垂れ、開いてあったページに目をやると、マタイ伝にあるこの言葉が目に入りまし



何か、間違っ



た。

「あなたがたに言うが、審判の日には、人はその語る無益な言葉に対して、言い開きをしなければならないであろう。

あなたは、自分の言葉によって正しいとされ、また自分の言葉によって罪ありとされるからである。」(マタイ12:36-37)

いまだかつて私は、聖典を通して啓示を受けたことはなく、このように天父の思いを強く感じたことはありませんでした。このとき、聖霊が私をこの言葉へと導いてくださったのです。「何が間違っているのだろうか」という質問の答えは簡単でした。私は聖典を読み、聖句にしるしをつけ、聖典を読むのを楽しみにさえていました。しかし、聖典の言葉に従った生活はしていなかったのです。ある意味で、主がたびたび叱責された偽善者パリサイ人のようだったのです。私は聖典を置いて、悔い改めるために祈りました。

祈りのこたえは、雷のような声や激しい地震を伴いませんでしたが、自分自身を吟味するのに十分な力を私に与えてくれました。その年聖典の勉強を続け、イエスの生き方の新しい側面に出会うたびに、私は自分自身を評価していききました。いくつかの面においては何も問題はありませんでした。そのほかの多くの面で、性格や態度、行ないを変えなければなりません。こうした努力を続けた結果、私は以前よりももっと自分自身に満足できるようになっていきました。

これらの新しい標準は、祝福をもたらしました。思いもよらなかったことですが、毎日30分という時間の積み重ねが、とても大きな広がりをもたせてくれたのです。聖典を読み、キリストの模範に従って生活しようと努めて以来、生活の様々な面において自分が少しずつ成長しているのがわかりました。

私は、自分で設定したたくさんの目標を達成することができ、驚いたことには、学校でも今までで一番良い成績を修めることができたのです。□

るのたろうか

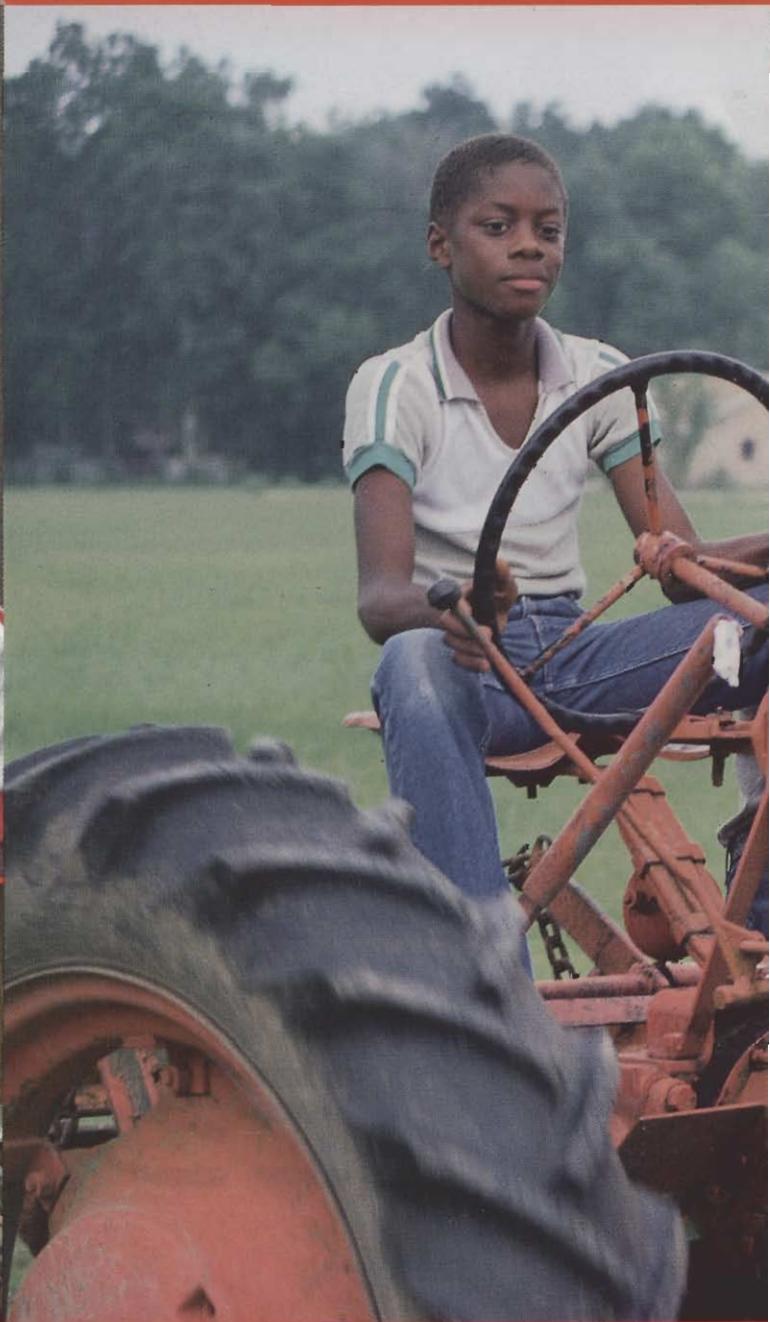
カール・ハートン

卵性双生児は、外見がそっくりです。米国ルイジアナ州のプラクエムニーに住むレン・ハリスとロー・ハリスも一卵性双生児です。しかし、このふたりはまったく違った個性を持っています。

レンは将来、医者になりたいと思っています。ローは弁護士になるのが夢です。

レンは自分の化学セットで実験をすることが大好きですが、ローは暇さえあれば、百科事典を読むことが大好きで、

幸せはい



つも二倍

メルビン・リービット

今までに何種類かの百科事典全集を読み終えたほどです。

ふたりの両親は、レンとローについて、こう話しています。「ローは、母親似の物静かな性格ですが、レンは父親ゆずりの活発な性格です。」

しかし、レンとローにはとても似ているところもあります。ふたりとも馬に乗ることや、郊外にある小さな農場でトラクターを運転することが好きです。またプラモデルの飛行機を作ることや、釣りに行くこと、バスケットボール



や野球、それにボーイスカウトの小旅行に行くことが好きなことも同じです。

またふたりは教会の執事の責任も大好きです。ふたりの集っている教会は、喫茶店と交番の間にある、以前はボーリング場だった建物を教会堂に改造したもので、そこでの聖餐会で聖餐のパスをすることが、ふたりは大好きです。日曜学校や執事定員会の集会で福音を学ぶことも大好きです。そして何よりもふたりは、すてきな両親とやさしい姉たちをとっても愛しています。レンとローはもちろんとても仲良しです。

ふたりは神権の大切さとすばらしさについて、父親と長老定員会の会長の模範から学びました。また神権者を支える母親や扶助協会の会長の模範からも学びました。

高校の校長先生をしている父親と、英語の教師をしている母親を持つふたりにとって、家庭は大切な教育の場です。しかし、ハリス家族にとって最も大切な教育は、回復された真実の福音なのです。

レンとローのふたりが住んでいるブラクエムニーは、ともろこし畑の続く、なだらかな地形の、朝もやのとても美しいすてきな所です。ふたりの家は、ミシシッピー川からほんの1ブロック離れたところにあります。ときどき、家族で川岸を一緒に散歩したりします。ミシシッピー川のゆるやかな水面をながめながら、家族みんなの心も穏やかで平安な気持ちに包まれます。

レンは自分の家族について、こう話しています。「ぼくたちは、本当に幸せな家族だと思います。両親はぼくのことをとても愛してくれてるし、ぼくも両親を心から愛しています。毎日、朝と夜に家族みんなと一緒に祈ります。そして祈りのあとに、一人一人抱きしめて、どんなに愛しているかを伝えるんです。お父さんが仕事から帰ってくると、みんなで玄関まで競争して走って行って、お父さんを迎えたりもするんですよ。」

ハリス家族にとって、福音学習の時間はとても大切な時間です。ローはこう話しています。「ぼくたちは、家族で毎晩、聖典を声を出して読みます。そしてもちろん個人個人でも読みます。モルモン経を必ず読むようにしています。お父さんが、今夜は何について読みたいかを聞いてくれるので、みんなが読みたい所を読むようにしています。」

ハリス家族は、とても愛ある一致した家族ですが、それでもときには、意見の食い違いや解決しなければならない問題もあります。そのようなときは、家族会議を開いて話し合い、問題を全員で解決します。ハリス兄弟姉妹は、いつも公平で、しかも思いやりをもって、信仰により家族の問題を解決するように心がけています。

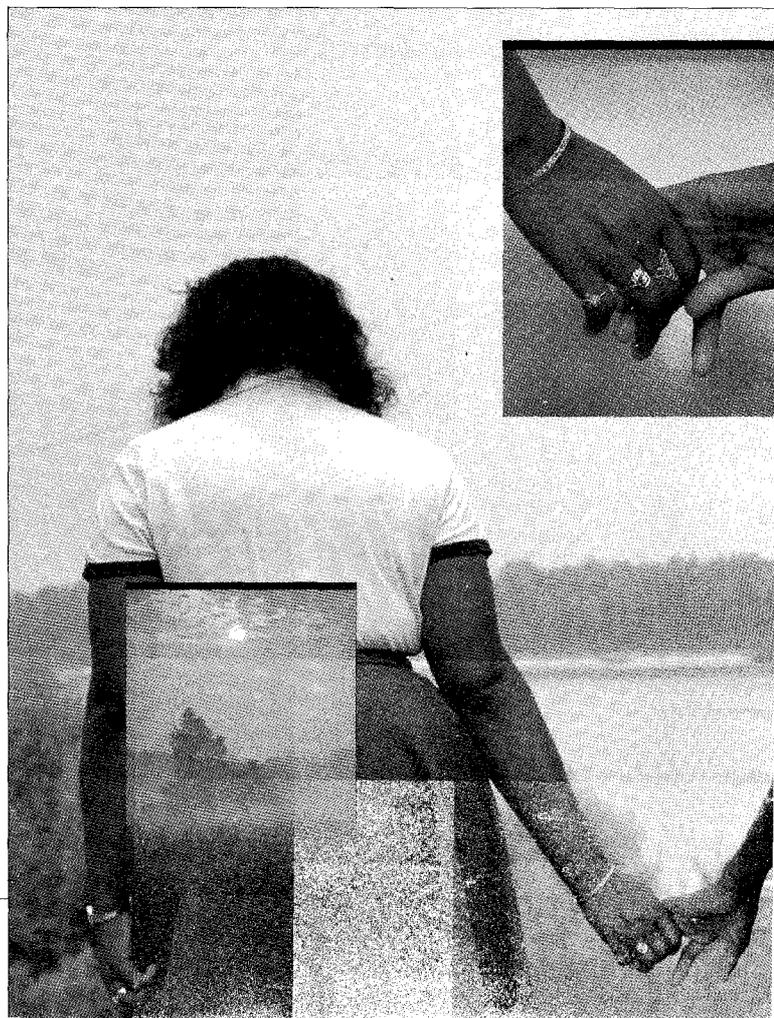
ハリス家族の行なうすべてのことには愛があります。愛はお互いを正直にします。ローは自分の家族についてこう話しています。「ぼくは家族をとっても愛しています。そして

家族のみんなもぼくのことをとても愛してくれています。家族がぼくを愛してくれていることを、何度も何度も感じました。お父さんがぼくのことを本当に愛してくれていると感じたことがあります。ぼくがまだ泳げないころ、4回も水に溺れたことがありましたが、お父さんは4回とも、洋服を着たまま、靴もはいたまま水に飛び込んでぼくを助けてくれました。

神殿で家族全員が結び固めを受けたときは、まるでみんなが永遠の愛の保険に入ったような、とても安心した気持ちになりました。たとえこれからぼくたちのだれかに何かが起こっても、家族は永遠に一緒です。」

ハリス家族にとって、アロン神権の力は、特別な意味があります。ハリス家族が改宗したきっかけは、通りの向こうに住む12歳の執事の少年が福音を紹介したことでした。ローは神権についてこう話しています。「ぼくは小さいころから神権を授けられることを、楽しみにしていました。まるで楽しい旅行の日を何日も前から待っているような気分でした。神権を受けたときは、本当にうれしかったです。なぜなら両親から神権の大切さについていつも聞いていたからです。」

レンも次のように話しています。「ぼくたちは伝道のために、今から準備しています。少しずつ自分で貯金もしています。お父さんは、ぼくたちにほかの国の言葉を勉強する



ように勧めてくれました。ぼくはスペイン語とフランス語を少し勉強しています。」

ふたりは伝道に備えることや、教会でお話の責任を果たすことや、どのように奉仕をしたらよいかについて学んでいます。ハリス姉妹は、アイダー姉妹の家に訪問教師として訪れたときのことを今でもよく覚えています。アイダー姉妹の家に着くと、そこにはレンとローがいました。ふたりはアイダー姉妹の壊れた芝刈り機の修理を手伝っていたのです。レンは奉仕についてこう話しています。「いろんな人を助けることはとても楽しいことです。ぼくたちは毎週月曜日には、お年寄りの家の庭の手入れをすることに決めています。」

ハリス兄弟姉妹はふたりの双子の息子たちをととても誇りに思っています。ハリス姉妹はこう話しています。「ふたりは本当に特別な子供です。学校でも優秀な生徒として選ばれました。私たち家族にこんなにすばらしい息子たちが与えられるとは、思ってもみませんでした。私は女の子ばかりの家庭で育ったのでなおさらです。私たちは上のふたりの娘が正しい女性に育ってくれているように、ふたりにも正しい人に育ってほしいと願っています。」

ハリス兄弟はこう話しています。「ふたりとも私のことを本当に愛してくれています。そして私も彼らを愛しています。私は自分自身よりもふたりの息子たちを愛していると

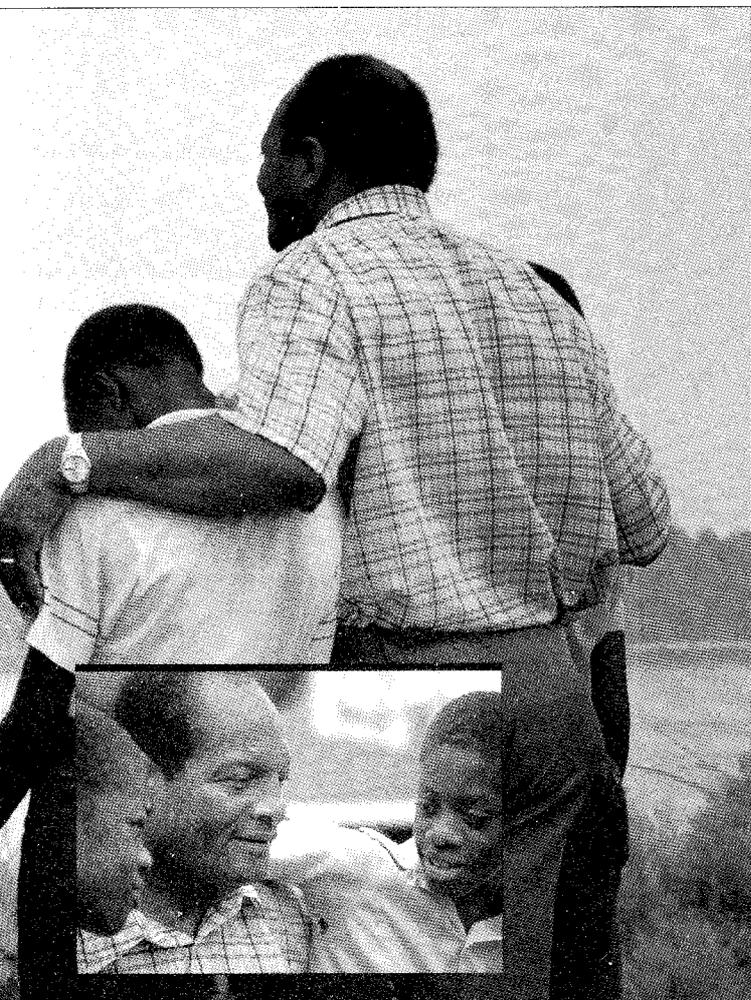
言ってもよいほどです。いつもふたりのために、もっと良い父親になろうと努力しています。私は自分に神権が授けられたときのことを今でもよく覚えています。そして神権を持つことが、私にとってどんな意味をもつのかということを知ったときの喜びも忘れることができません。私は長い間、息子たちが神権者になることを待ち望んでいました。支部長が、息子たちをアロン神権を授けるにふさわしい兄弟たちであると認めてくださったときには、息子たちを本当に誇らしく思いました。私は、ふたりが救い主イエスキリストの望んでおられることをもっとよく理解し、キリストのような人格を具えた人に成長してくれるよう望んでいます。そうすれば、あらゆる場で祝福を分かち合うことができるでしょう。ふたりは、すでに私たちに大きな祝福を与えてくれています。」

日曜日の午後、レンとローにとって、とても楽しい時間です。なぜならふたりの父親であるハリス兄弟が、レンとローに、自分の子供のときの話をしてくれるからです。ふたりは、父親の子供のときの話聞くことが映画やゲームや魚釣りをすることよりも何よりも好きなのです。ハリス兄弟は、若いころ、日記をつけてはいませんでした。彼の話はまるで、ついきのうのこのように生き生きとしているので、ふたりの息子は、父親のそのときの気持ちが伝わってくるようで、いつも話に引きつけられてしまいます。レンとローは、いつも「それからどうなったの？ それからどうなったの？」と次の話が聞きたくて仕方ありません。

ハリス兄弟は、息子たちに話したあとで、いつもふたりにこう尋ねます。「きょうの話の中で、君たちはどんなことを学んだかな？」そして息子たちの答えに耳を傾けます。ハリス兄弟はまた尋ねます。「話を聞いてどう思った？ どんなふうに感じたかな？」そしてまた息子たちの答えに耳を傾けます。親子でそのときの気持ちを分かち合うことは、すばらしい経験です。愛と知識の糸は、決してほどけることのない家族の絆を美しく編みあげていくのです。

レンとローは、とても幸せな少年です。ふたりは互いに、とても強い絆で結ばれています。ルイジアナの美しい自然と、雄大なミシシッピー川と、やさしく義しい両親と、神様の祝福の中で。そしてすばらしいお互いの友情の中で。初めてふたりを見た人たちは、レンとローの見分けがつかないでしょう。しかし、ふたりをよく知っている人たちや、ふたりを愛する人たちは、レンとローをすぐに見分けることができます。そしてレンとローは、天のお父様がふたりをやさしく心から愛して下さり、ふたりのことをよくご存じであることを知っています。

レンとローは愛と真実の福音により、ひとつに結ばれています。レンとローは、幸せもいつも二倍にして分かち合える特別な双子の兄弟なのです。□





「あ、始めま
しょうか」
と言ったものの、私
は初めてのバプテスマ
の面接をするのに
いささか不安があり
ました。でも、私は
自信を持ってできる
ようにと自分の最善
を尽くしていました。

「はい、先生」と
私の真向かいのいす
に腰かけているカン
ボジア人の婦人が答
えました。この地域
の宣教師たちは、カ
リフォルニアの中央
部にあるサンホアキ
ンバレーに居住して
いる、南アジアから
の難民に英語を教え
ることに成功してい
ました。この英語教
室のおかげで、宣教
師たちは、多くの
人々に福音を伝える
ことができ、そこで
学ぶ人々は、皆宣教
師を「先生」と呼ん
でいるのです。

4、5日前から、
私は、この面接のた
めに質問の練習など
をして自信をもって
できるように準備し
てきたつもりでした。
長老たちは、彼女は
英語ができるから通

訳はいらないと言っていたのです。私は祈りのあと質問を始めました。

「イエス・キリストの福音について祈ったことがありますか。その祈りはこたえられましたか。」

微笑^{ほほえ}んでいた口元がゆるみ、彼女は笑いながらこう答えました。「先生、わかりません。」

英語がむずかしいのだろうと思い、私はなるべく簡単な表現を用いてみました。「あなたは教会が真実であるを知っていますか。」

彼女は、私の言ったことがわからないというように私を見ました。そして笑いながら、「あの……わかりません」と言うのです。

私は困ってしまいました。彼女は確かにバプテスマを受けたがっているのを私は知っていましたし、彼女はこの地域のカンボジア人のために開かれている支部にも集っています。私は面接を無視して彼女のバプテスマの許可を出さなくてはならないのだろうか。そんなことはできるはずがない。私はまったく困り果ててしまいました。私としては、これ以上は不可能といえるほど簡単に、わかりやすく質問をしているのに、彼女はどんな質問の意味も理解することができないのです。

そのとき、私は宣教師のフリップチャートを使うことを思いつきました。それは長老たちが、面接で困ったときに使うようにと私に渡してくれたものでした。福音の原則が書かれたそのチャートの下の方には、この地方のアジア人が用いるいくつかの言葉が書き加えられているのです。私は1課のところを使うチャートの中に、イエス・キリストの絵を見つけました。そして、その絵を彼女に見せて

尋ねました。「イエス・キリストを知っていますか。」彼女はぱっと顔を輝かし、何度もうなずいて「はい、私はイエス・キリストを愛しています」と絵を見ながら答えたのです。

やっと私たちはお互いに分かり合えるものを見つけたのです。それは流暢^{りゅうちやう}とはいえない英語で、彼女の知る限りの言葉と思いを尽くしての精一杯の対話によって得られたものでした。人の心に力強く伝わってくるもの、愛というひとつの言葉で言い表わされるものでした。この愛によって私は彼女がジョセフ・スミスを愛していること、ベンソン大管長を、十戒を、什分の一の戒めを愛していることをはっきりと見極めることができたのです。

知恵の言葉について尋ねるのに、私はビールのびんの絵とたばこの箱、コーヒーの絵のフリップチャートを見つけたことができました。イエス・キリストの律法に背くこれらの絵を目にしたとき、彼女はすぐ激しく首を横に振りながら、「だめ、先生。これだめ」と答えました。

すべての質問に、十分満足に解答がなされ、彼女は無事に面接を終えたのでした。特定の人物や概念だけにとどまらず、すべての人、すべての物に対する彼女の愛を私はこの面接を通して分かち合うことができたのです。あの午後、私は強いみたまの証を受けました。彼女があらゆる面で、バプテスマを受けるにふさわしい人であると、ほかの人々から聞いていましたが、そのどんな言葉にも勝る力強い証でした。彼女に「バプテスマを受けられます、おめでとう」と言ったとき、彼女は顔を輝かせて再び私にこう言ったのです。「ありがとうございます、先生。」

私はあなたを愛しています。」

彼女がこう言うのを聞いたとき、私はイエス・キリストがすべての律法のうちで最も大なるものは何かと聞かれて答えたあの聖句を思い出しました。「イエスは言われた。『心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ。』これがいちばん大切な、第一のいましめである。第二もこれと同様である。『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ。』」(マタイ22:37-39)

この婦人は謙遜にも、私を先生と呼んでくれました。しかし、面接のときに彼女が答えてくれたあの愛によって、私こそ彼女からすばらしい教えを受けたのでした。彼女は福音の本当の意味をすでに学んで知っていました。彼女はどんなことについても、いついかなるときでも、どこにいても、イエス・キリストを愛しており、自分の周りにいる人々を、そしてすべての人々を愛しているのです。だれも彼女に救い主の戒めを守るように説得する必要はありません。なぜなら彼女にとってキリストの戒めを守るのはごくあたりまえのことだからです。彼女はイエス・キリストを愛しているので、その律法を故意に破ることなど思ってもみないことなのです。この面接の経験の後にも、私は多くの人々が福音について力強い証を述べるのを耳にしました。また、みたまが証する霊的なすばらしい経験について人々が語るのを聞いてきました。しかし、あの粗末なアパートの一室で聞いた、難民の婦人の「はい、先生、私はイエス・キリストを愛しています」という言葉以上に私に影響を与えたものはほかにないのです。□

心のすべてを尽くして

マイク・オースチン

「中日音楽交流会」1987年10月31日

日本・台湾の教会員の証

昨年の10月31日、台北のステキ部センターのホールにおいて、「中日交流音楽会」が開催され、中華民国(台湾)、日本の教会員による演奏、独唱が行なわれました。

この音楽会が開かれたきっかけは、今年の5月24日の「中日文化交流会」の発足に始まります。この会は台湾と日本の教会員の交流を深め、中国大陸への伝道、シオン建設に向けて一致協力しようと、渡部正雄会長(台北神殿第二副神殿長)、陳順生(台北東ステキ部高等評議員)、小針彰彦(台北第一ワード部大祭司グループリーダー)両副会長の下、台湾、日本の教会員を中心に発足したものです。毎月、座談会や食事を開いてきましたが、渡部兄弟の提案により、ぜひ音楽を通じて日本と台湾の交流を深めようということになりました。渡部

兄弟が台湾の地区代表の劉春華長老に相談されたところ、快く同意してくださり、台北の東、西両ステキ部合同で、今回の「中日交流音楽会」を開催することになりました。

日本からは、渡部ご夫妻と親しい間柄にあり、ピアニストとして活躍しておられる

石井由美姉妹(東京東ステキ部松戸ワード部)、セカンドピアノの演奏者として土持恵理美姉妹(横浜ステキ部小杉支部)も参加していただきました。

この音楽会は、台湾と日本の教会員の友好をさらに深めるための大きな役割を果たしました。

節目表

- | | |
|---|--------------------------------|
| 1. 鋼琴獨奏.....演奏者: 官 聖 華 | 6. 獨唱.....演唱者: 李 駿 郎 |
| (1) Mozart KV283 奏鳴曲第一樂章 作曲者: Mozart | (1) 湘江紅 作曲者: 林 保 翁 |
| (2) Haydn 奏鳴曲第一首第三樂章 作曲者: Haydn | (2) 虎城の月 作曲者: 瀧 達太郎 |
| 2. 鋼琴獨奏.....演奏者: 官 聖 媛 | 7. 鋼琴獨奏.....演奏者: 石井 由美 |
| Dolly's dreaming and awakening 作曲者: T. Oesten | 波を渡る パオラの聖 |
| 3. 鋼琴獨奏.....演奏者: 石井 由美 | フランシスコ 作曲者: Liszt |
| 子供の讚美歌より一曲 | 8. 小提琴獨奏.....演奏者: 李 佳 龍 |
| 4. 大提琴獨奏.....演奏者: 柯 慶 欣 | 作曲家: Sarasate |
| Concere in "E" minor 作曲者: David Popper | 伴奏者: 李 佳 霖 |
| Op. 24 Imov. Allegro Moderato 伴奏者: 張 翊 月 | 9. 鋼琴獨奏.....演奏者: 石井 由美 |
| 5. 鋼琴獨奏.....演奏者: 李 佳 霖 | Sonata 作曲者: Scarlatti |
| Ballade Op. 23 No. 1 作曲者: Chopin | 10. 鋼琴合奏.....主奏者: 石井 由美 |
| in "G" minor | Concerto 1st. e.m. 作曲者: Chopin |
| | 協奏者: 土持恵理美 |

日華親善に 大きな貢献を

台北神殿第二副神殿長

渡部 正雄

かねて「中日文化交流会」で何か活動をしたいと思い、昨年(1986年)の初めより石井由美姉妹に来台演奏をお願いしてあったのですが、お体の具合が悪く、なかなか実現せずにいました。しかし今回、まだ十分に健康が回復されていないにもかかわらず、土持姉妹と共に来台され、「中日音楽交流

会」が実現しました。

台北東、西両ステキ部合同主催により、音楽一家である李兄弟の娘さん、息子さんのピアノ、バイオリン、そして李兄弟の「荒城の月」そのほかの独唱など、実に盛会でした。特に日本からのふたりの姉妹の演奏には、300人以上の聴衆が感動絶賛し、特に石井姉妹の「波を渡るパオラの聖フランシスコ」を聴いて、「ほんとうにその姿が絵巻物のように目に映った」「これだけのピアノを弾く人は台湾にもいない」と感謝感激感嘆しました。石井姉妹の深い信仰と大きな愛が音の波にのって聴く人の心を打ったのでしょう。

11月2日の祝賀パーティーには神殿長、第一副神殿長ご夫妻、伝道部長ご夫妻、ステキ部長ご夫妻をはじめ、計63人が参加し、日本からの音楽使節一行に深く感謝しました。

日華親善文化交流促進に大きな貢献をしてくださった日本の兄弟姉妹に心から感謝し、今後ますますご活躍されるよう心からお祈りする次第です。(わたべ・まさお 1914年生まれ)

●渡部正雄兄弟(右端)



願わくは、 近い将来再び



台湾地区代表 劉 春華

美しいピアノの音色、たくみな10本の指によって生み出される旋律がホールの隅々までこだまし、300人以上にのぼる聴衆の心を捕らえて放しません。曲が終わるごとに嵐のような拍手が起り、人々を陶酔の世界から呼び覚まします。この音色は遠方より来られた方の美しい両手によ

って生み出されるのです。この方は私たちが長い間待ち望んできた方で、日華友好のために来られた石井由美姉妹です。

石井姉妹はピアノを専門に学ばれ、たいへん造詣の深い方です。ピアノを教え、後進の方を育てられるとともに、よき師を求めひたすら精進してこれたと聞きます。

それだからこそ、このようなすばらしい進歩を遂げられたのでしょう。石井姉妹はピアノの演奏技術だけではなく、演奏曲の感情表現にも独創的なものがあります。また彼女の謙遜な態度、気高く雅やかな氣質に感心させられました。

私たちは台北東、西両ステーク部合同主催による「中日交流音楽会」を成功に終わらせることができました。願わくは、近い将来再び石井姉妹たちをお迎えし、このようなすばらしい機会をもうけることができればと思います。そのときは再び私たち台湾の兄弟姉妹をさらにすばらしい演奏で魅了して下さることでしょう。(リュウ・チユンフオア 1931年生まれ)

これほど忘れられない 思い出になるとは……

横浜ステーク部 小杉支部 土持 恵理美

この4泊5日の旅が、これほど忘れられない思い出になるとは思ってもみませんでした。

「中日交流音楽会」での協演を石井由美姉妹から頼まれたときには、正直なところお断わりできればと思いました。理由はいろいろありましたが、保守的な私は新しいことに飛び込む勇気もなく、それにも増して石井姉妹の足を引っ張るだけだと思い、迷っていました。それでも主人から「石井姉妹は病気をおして主のために奉仕しようとしているんだよ」と言われ、気がすまぬまま承知しました。

それからしばらくしたある日、神殿に参入したときのことで。「おのれの才能、財産、時間のすべてを主に捧げる」という主との誓約が参入の間ずっと頭の中で鳴り響いたのです。

アルマ26章12節の「私は自分が取るに足らない者であることを知っている。私の能力は弱い。それであるから、私は自分のことを誇らないただ私の神のことを誇る。それは神のたもう能力によって何事もすることができるからである」という、アンモ

ンがアロンに述べた言葉を思い出しました。それと同時に、目先のことばかりに捕らわれていた自分が恥ずかしく、心から洗い清められる思いがしました。主が助けてくださる。これは主への奉仕なのだ……と。

台北では、渡部ご夫妻をはじめ教会員の方々がとても温かく迎えてくださり、感激で胸がいっぱいになりました。

音楽会の前夜、2台のピアノで石井姉妹とリハーサルをしましたが、石井姉妹の音が残響のためにさっぱり聴こえてきません。セカンドピアノ奏者が音を聴くことができないというのは致命的でした。まったくお手上げといった状態で、その夜祈りました。どうかほんの少しでも石井姉妹に音を合わせるができますように……。

本番になって、ソロを弾いているときにマイクがあるのに気がつきました。はたして石井姉妹の音が聴こえるかどうかです。先に私が弾き始めました。最初の部分を弾き終わると同時に石井姉妹が弾き始めました。聴こえるのです。それもはっきりと明瞭に。リハーサルではあれほど聴こえなかった石井姉妹の音が、本番ではレコードを聴いているように鮮明に聴こえてくるのです。石井姉妹が私を見守りながら弾いてくださっているのをひしひしと感じました。

演奏が終わったとき、主に感謝すると同時に石井姉妹の霊的な愛に心から感謝しました。彼女を通して、主の導きを感じました。また、台湾の人々の温かいまなざしを見るとき、彼らの琴線に触れた思いがしました。国籍も言葉も違っても、福音を通して私たちはひとつであること、国境を越えて主につながっていることを実感させられました。台湾の人々の笑顔をいまだに忘れることができません。今回の音楽会が日華友好の掛け橋となることを、心よりお祈りいたします。(つちもち・えりみ 1961年生まれ、横浜ステーク部若い女性会長)



心に愛の灯がともりました

東京東ステーキ部 松戸ワード部 石井 由美



●土持恵理美姉妹(左)と石井由美姉妹

今回、「中日音楽交流会」へのお招きに
あずかり、たくさんすばらしい経験や、
人々と出会えたことを、心から感謝して
おります。

台北での演奏のお話は以前よりござい
まして、渡部正雄副神隊長から何度も温かい
お便りをいただきましたが、調整がつかない
こと、体調も思わしくないことなどの理由
で、延ばさせていただいておりました。

友人のバイオリニストの伴奏で、台中へ
行くお話があり、友も一緒という心強さも
手伝ってようやくお引き受けすることに
しました。

しかしその後、精密検査の結果、手術を
受けなければならないことになりました。
大学病院の医師から、まず手術に耐えられ
るように治療を受けること、そして1カ月
後に手術を行なうことを知らされました。
いろいろな思いが交錯し、両親の心中など
を思うと台北への旅はとても実現できな
いと考えました。

折りしも渡部兄弟からお電話をいただき、
うかがえない旨をお伝えしましたところ、
非常にかがかりされ、沈んだお声で電話を
お切りになりました。そのお声がいつまで
も私の心の中に響きました。なぜなら、イ
エス様の足跡をひたむきに歩んでこられた
渡部兄弟の人生、生きざまを思いますと、
あたかも主ご自身が悲しまれたようで、私
もつらく、心は沈みました。

その晩、ニーファイ、そしてアピナダイ
の言葉が深く心にしみました。

「人がもし主を信ずる信仰を表したなら
ば、主は人のためにみこころのままに何で
もできることを忘れたのはどうしたことか。
……私たちは主に忠誠を尽そうではない
か。」(I ニーファイ7:12)

「私は自分の使命を果そう。……自分の
行末については何の心がかりもないので
ある。」(モーサヤ13:9)

祈りました。豊かな平安が与えられ、温

かいみたまに満たされました。そして、台
北へうかがわせていただく旨を、したため
ました。

そんな中で、東京東ステーキ部の音楽会
が催され、審査員を兼ねてピアノ演奏を依
頼されておりました。当日、心はずんで
いても前日の再検査や点滴などで体は弱っ
ていて、ただ、責任を果たしたい一心でス
テーキ部センターへ向かいましたが、神崎
良太郎ステーキ部長はこの会でみたまを感
じ、涙を禁じえなかつたとおっしゃって
くださり、感謝と平安の内に力を得ました。

7月から9月にかけて、関東・静岡地区
大会の聖歌隊350人の練習、指導のため、静
岡、東京、千葉を訪問させていただき、楽
しく務めさせていただきました。地区大会、
ステーキ部大会と、みたまを豊かにいた
だき、休むこともなくすべてのスケジュール
をこなすことができました。台北行きはお
医者さまから反対されましたが、私の心が
明るくはずんでいるのをご覧になってか、
無理に止めようとはなさいませんでした。

土持兄弟は、お忙しい中お休みをとって
くださり、私がピアノに打ち込めるように
何から何まで手配してくださいました。ま
た、奥様の恵理美姉妹にはピアノ演奏でも
助けていただきました。

台北に着き、美しい台北神殿内で渡部兄
弟は特別な祈りを捧げてくださり、胸が熱

くなり、涙が流れました。

台北の兄弟姉妹の温かいご配慮の中、「中
日交流音楽会」は無事終了し、新しい友達
もでき、私の心の中に台湾の兄弟姉妹への
感謝と愛の灯がともりました。台北での
日々は楽しくすばらしく、私が病人である
ことなどはまったく忘れさせてくれました。

みなさんの温かいお心と助けに感謝して
おります。また、お手紙の上でしか存じあ
げなかつたピアニストの胡心麗姉妹とも
会ひでき、楽しいひと時を過ごすことが
できました。今度は心麗姉妹に日本で演奏し
ていただきたいと願っています。

今、私は少しずつ中国語を学び始めま
した。愛する中国の兄弟姉妹のお役に立ち
たいと、また、音楽を通して努めたいと思
います。今、手術を受けることもなく驚くほ
どに快復し、この経験が私にとって必要な
ものであったことを改めて知りました。

主の数限りない導きと恵みに、日々感謝
いたしております。(いしい・ゆみ 東京東
ステーキ部若い女性第一副会長)



ワード部/支部特集③

アイヌ語でオタルナイ(砂の浜)



札幌西ステーク部

小樽ワード部

●全国各地のワード部/
支部をご紹介するコー
ナーです。



小樽ワード部を ご存じですか？

監督 丸中 淳

北海道西部、石狩湾に面する都市、小樽は、アイヌ語でオタルナイ(砂の浜)といわれ、南の室蘭港とならんで北海道の開拓とともに急速に発展してきた港町です。明治のはじめに札幌に開拓使がおかれ、鉄道が開通してから、サハリン(樺太)を後背地として発展しました。手宮洞窟の古代文字などの史跡もあり、北部の海岸には景勝地が多く1963年にニセコ積丹小樽海岸国立公園に指定されました。

小樽の教会の歴史は古く、38年ほどになります。私もその歴史の途中から参加させてもらったのですが、私が教会員となったのは、今から16年ほど前で建物も新築されたばかりのころでした。そのころは教会員の数も少なく30人を少し越えるほどでしたが、建物が献堂されてから、ゆっくりではありますが着実に歩み続けてきました。

昨年小樽ワード部は、「ひとつとなる」という目標をもって頑張ってきました。この

目標のひとつの成果は29人のバプテスマという目に見える形で表われました。これは宣教師と会員たちの一致の賜でした。

昨年に続き、今年も新たに「思いと行ないをキリストに近づける」という目標を定め、スタートしました。この末日の時代、自分自身を主に近づけようとするのは必要なことです。きょうの自分よりも明日の自分は、考え方、祈ること、聖典を学ぶこと、人に親切にすることすべてにおいて、少しでも進歩しよう。それは、その分だけ

主に近づくことになるのではないかと考えたのです。

「聖典を学ぼう」、「日々証を新しく」、「開拓者たちの信仰に学ぼう」、「家族の一人一人に関心を示そう」と四半期ごとのサブテーマを設け、1年後の自分が今の自分よりもはるかに優れた者となることができるように、私たちは今、頑張っています。(まるなか・じゅん 1953年生まれ)

モルモン経の挿絵 との出会いから

荒尾 千香子



聞き、だんだん興味がわいてきて宣教師からレッスンを受けるようになりました。耳の聞こえない私に、長老たちは時間をかけて、筆談を交えてゆっくりと話してくださいました。それまでは、イエス様が十字架で亡くなられたことは知っていましたが、釘を打たれたことは初めて知り、驚き、感動しました。

ところが私は、「天のお父様、助けてください」と祈るある姉妹の姿を見て、宗教に頼って生きる人は弱い人だと感じ、またジョセフ・スミスの見神や、神様が生きていることを証する教会員に対しても疑問を持ちました。いつも祈るとき、イエス様に感謝しながらも、イエス様がどれだけ苦しんで死なれたのか私にはわかりませんでした。

私は学生時代、街頭で姉妹宣教師から声をかけられたことがありました。耳が不自由な私に、彼女は筆記で神様のことを教えてくれましたが、当時私は宗教に無関心で、彼女の言うこともよくわからなかったため、それ以上福音を学ぼうとはしませんでした。

数日後、家の中で珍しい本を見つけ、開

けてみるとむずかしい文章が書かれていました。ページをめくっていくうちに、イエス様が使徒を按手聖任している挿絵に目がとまりました。どことなく心引かれ、しばらくその絵から目を離すことができませんでした。あとでわかったのですが、それは妹が宣教師からもらったモルモン経でした。

その後、教会員になった友達から福音を



レッスンのあとの祈りのときも、長老たちはとてもよい気持ちを感じている様子なのに、私には何も感じられませんでした。

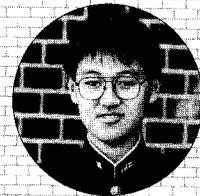
しかし、それが普通だと思っていた私も、何度かのレッスンの後、初めて心の中に温かいものを感じたのです。心から悔い改めて祈ったとき、体全体が温かく包まれ、何とも言えない穏やかな気持ちになりました。そのとき神様が生きていらして、私のそばにおられるという強い確信を得ました。聖霊を受け、また宣教師と教会員の温かい笑顔に励まされて、バプテスマを決心しました。

かつて宗教に無関心だった私は、今ではいつも天父とイエス様を思って生活しています。それは自分が天のお父様の娘であることを知ったからです。救いの計画を知ってからは、この世に生きる目的や、何もかもすべて福音の中から学べる毎日を感じたいばかりで過ごしています。

心の中にしまい込まれていたイエス様の挿絵への思いを引き出してくれた友達に感謝しています。モルモン経には不思議な力があることを証します。(あおら・ちかこ 1962年生まれ、初等協会書記補助)

ぼくの証

早川 隆康



ぼくは中学2年生になりました。なぜかこのごろ教会に行きたくなくなることがあります。でもいざ教会堂に入ると、心が温まり、平安な気持ちになれます。

ときどき学校の友達に、「どうしてコーヒーを飲まないんだ」と言われたりしますが、特に嫌な気持ちもせず、「教会の会員だから飲めない」と、はっきりと断ることができます。

そして友達が、この教会に興味を持ち、教会に行ってみようと言うこともあります。

ぼくは、この中学校生活の間に、いろいろと神様の導きや助けが身の周りに起きているのがわかります。それはこの教会は真実で、確かに神様は生きていて、ぼくたちをいつも見つめているからだ、証することができます。(はやかわ・たかひろ 1974年生まれ、執事定員会会長)

白い波

藤田 明子



あれから5年の歳月がたつというのに、まるで昨日の出来事のように私の心に焼きついている思い出があります。

それは、夏の日も過ぎ去り、もう土用に入るころのことです。北海道の夏は短く、8月も5日を過ぎると、海は波が高くなるのですが、私は夏の日を惜しんで、息子と親戚の者たち10数人とで近くの海岸へ泳ぎに行きました。

太陽はギラギラ輝いていましたが、波が高く、それはいつもの波打ち際に碎け散る白い波ではありません。その土用波の引き潮の恐ろしさを私は聞いていました。でも、その日の私は一体どうしたのでしょうか。久しぶりに帰省した妹に会って、はし

やいでいました。

海岸に着いたとき、土用波の恐ろしさをみたまの力で感じたはずでした。浜辺の遊泳禁止の赤旗に注意を払うはずでした。でも私は、「皆がいるから安心」という気持ちで水の中へ入って行ったのです。やがて私は、いとこ同士で競争している息子の泳ぎがずいぶん早いことに気づきました。ふと私の心に何かせき立てられるものを感じました。息子のそばに泳ぎつき大声で叫びました。

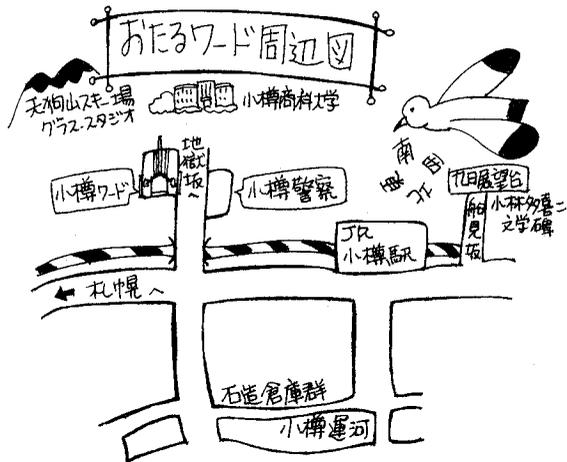
「みつる！ どうしてそんな遠くへ行ってしまうの!? 早く戻りなさい！」

私はそのとき、息子の表情にただならぬものを感じました。恐怖に引きつり涙をためている瞳に出会ったからです。背筋に冷

たいものが走りました。手を伸ばして息子の手を握りました。そのとき私たちはぶくぶくと水中へ沈んでいったのです。

私たちの泳いでいる場所は、背の立たない深みであることを初めて知りました。潮の流れが下で渦巻いていて、川の流れのように冷たい水がどんどん左手の沖の方へと流れているのです。大波は容赦なく私たちの頭上を越え、そのたびに鼻や口から塩からい海水が入り込んできます。私が手を離せば、まるで濁流にのまれる木の葉のように息子が流されていくのが目に見えています。手をつないでいては、ふたりともうまく泳げません。水に浮いているのが精一杯でした。渦巻く潮の流れからは決して抜け出せないのです。

海岸線はどんどん遠くなり、母が岸辺で必死に手を振り回している姿が波の間に間に小さくなっていきました。岸辺の近くにいる高校生を見つけ、必死に助けを求めましたが、その姿も遠ざかっていきました。私たちは、すごい速度で沖の方へと流されていったのです。「このまま息子の力が尽き



イラスト・藪谷ゆかり姉妹
●初等協会教師



小樽ワード部教会堂
〒047 小樽市富岡1-61
☎0134(32)7969 JR小樽駅から徒歩5分

たとしたら……。」そっとする思いでした。力の限界も近づいていました。私はひとりこの子をこのような恐ろしさと心細さの中から、死の世界へ旅立たせるのなら、必ず私も一緒に行こうと決心していました。

危険区域を知らせる黄色のブイのところを過ぎました。私はそのとき悲しみが込み上げてきました。長男のことを思い出したからです。あの子をおいて死ぬわけにはいかない。まだ若い、これから多くの問題を乗り越えなければならないであろう私のもうひとりの息子です。心が引きちぎられるような悲しみでした。「神よ、助けてください。」必死の叫びでした。絶叫に近い心の叫びだったのです。

そのときです。大波が私のすぐ後ろで起こり、私たちはまた水中に引きずり込まれました。ぐいっと前方へ腕と足が引っ張ら

れたような気がしました。そのとき、不思議なことが起こりました。あの大波の去った後、だれかが私を地面に立たせました。まるでストーンと置かれたようです。「立てるわよ!」「立ってごらんさい!」あの子の息子の笑顔は生涯忘れられません。

私たちはしっかり手をつないだまま一気に走りました。何度も大波をかぶりながらひたすら岸まで駆け上がりました。

岸から見ていた母の話はこうでした。海水の色でふたりが潮の川に流されていることを悟ったとき、母はあわてふためき、必死に手を振って私たちに危険を知らせようとしました。でも波の音にかき消されてその声も届きません。駆けずり回って男の人に助けを求めました。でも皆自分の命が大切でした。土地の人は、土用波の恐ろしさをいやというほど知っていたのかもしれない

せん。ついに母は、がっくり砂浜にひざを折り神に助けを求めました。

そのとき母は、私たちのすぐ後ろに小山のような白い波が起こり、私たちを岸辺近くまで押し出したのを見たのです。母は「あんな大きな波は、あなたたちの後ろだけにしか起きなかったのよ。まったく突然に。白い巨大な波だった。あなたの神が救ってくれたに違いない」と話してくれました。

もしも私の心の中に、神に対する深い愛の思いと、感謝と信頼に裏づけられた従順な思いがあるのだとしたら、あの日を契機として変えられたのかもしれない、といつも思います。私も息子も特別に与えられた命を決して無駄にはしてはならないのです。私は生涯神を証する者になろうと、そのときから決心しているのです。(ふじた・あきこ 1941年生まれ、扶助協会会長)



松原ひで女

●日曜学校福音の教義クラス教師

落の葉に

苺を摘みて

子らにかな



仰向きて

振向ひて

八重桜かな



小さき手の

「結んで開いて」

冬ぬくし



▶職業と信仰シリーズ◀

新しく生まれ変わる力

福岡ステークス部北九州ワード部

看護師 水本 静男



私の改宗は1973年5月27日、大学3年生のときでした。改宗する約1年ほど前からほかのキリスト教会の教えを聞いていました。当時、人生の方向を変える決心がつかずに洗礼を受けることを断わりましたが、何か割りきれない気持ちでいっぱいでした。今にして思えば、そのような気持ちになっていたことが、この教会の宣教師の呼びかけに答える準備になっていたのだと思います。

それから数日して、宣教師と出会い、2カ月後にバプテスマを受けました。「モルモン経を1ページ読むたびに、この書物が本当に神様の書かれた書物かどうか、祈り尋ねてください」と宣教師から言われ、そのとおり実行しました。レッスンを受けていた2カ月間にモルモン経を5回読み終え、この書物が人の力によってではなく、確かに神様の力によって書かれた書物であるとの証を得ました。

その後、良き姉妹とめぐり会い、結婚、子供にも恵まれ、家庭の大切さを痛感しております。

私が精神科病棟へ勤務するようになって10年になろうとしています。それまで看護師という職業があることさえ知らず、心機一転わらをもつかむ思いでの転職でした。

3年間の見習い期間を経て、看護学校へ入学しましたが、学校へ行きながらの仕事はつらく、人の2倍の時間働かなければなりません。ついに過労のため倒れ、入院し、1年間休職、休学の窮地に立たされ、家族、信仰、仕事、学校と様々な思いに眠れぬ夜を病院の硬いベッドの上で過ごしました。

その後、復学、復職し、合計5年間看護学校で学び、1987年春、看護師国家試験に合格しました。

このような様々なことがあった10年間に私が考え信じてきたことは、教会の教えが正しいかどうかはその実が証明する、ということでした。正しい教会の教えを信じていると公言するからにはそれになかった信仰の証明をしなければならない、言葉だけではなく行動でそれを表わさなければならない、末日聖徒であるなら何があっても

模範を示さなければ真の証は得られない、という思いでした。このような気負いが善いか悪いかはわかりませんが、私が現在の職業を天職と感じているのはこういった気負いがあったためだと思います。

精神障害者の方々は想像を絶するような大きな問題を抱えて苦しんでいます。私がおんなのような方々の助けになれるとは思えません、が、せめて慰めることができればと思います。

重症の精神障害の人々を看護するとき、そのあまりにも深い悲しみを前に、援助するすべがないと感じることがあります。言葉に表現しようのない苦悩に、「なぜなのだろうか」と問い続ける日々です。そのようなときに、聖典の次の言葉が目には焼きつきました。イエス・キリストは生まれつき目の見えない人に対して「本人が罪を犯したのでもなく、また、その両親が犯したのでもない。ただ神のみわざが、彼の上に現れるためである」(ヨハネ9:3)と言われました。

私は教会の内外で、精神障害者と共に歩んだ家族、そのほかの人々に大いなる祝福が与えられた例を幾度となく見てきました。その度に人を本当に救えるのは人間の力ではなく神様の祝福によるのだということを知りました。神の持つみたまの影響こそは精神を病んでいる人々にとって、まさに新しく生まれ変わる力となるのです。

今後もお一層自分を整え、精神を病み苦しむ人々の益になれるように努力していきたいと思えます。私はこの末日聖徒イエス・キリスト教会は地上で唯一の神の教会であり、人はその能力に応じた信仰と行ないにより祝福が得られることを証します。

(みずもと・しずお 1950年生まれ、北九州ワード部伝道主任)

編集室から

《原稿を募集しています》

▶各地のたよりの原稿を常時募集しています。改宗談や日々の信仰生活で得た証(仕事にかかわる証など)、本誌を読まれての感想文(「読書のひろば」)やカットなどをお送りください。また、北は北海道から南は沖縄までの幅広い話題を取りあげたく思いますので、広報ディレクターあるいは各種

催し物を担当する高等評議員/地方部評議員の方はレポーターを手配して下さるようお願いいたします。

▶本年8月号掲載分の締切は6月2日(必着)です。投稿には必ず連絡先(電話番号)と教会での責任(役職名)、生年月日を記入してください。お送りいただいた原稿は一部手直しさせていただくことがあります。

▶各地の行事や催しに関する記事はできるだけ早めにお送りください。

▶ワード部/支部特集への投稿を希望され

る方は、編集室へ直接お電話ください。必要な資料をお送りいたします。

▶小学生・中学生の方の詩の特集を企画しております。どのような作品でも結構です。ご応募お待ちしております。

▶あて先:〒106 東京都港区南麻布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト教会「聖徒の道」編集室 ☎03(444)5264

2月に 召された JMTC 第105期生 14人の名簿

S：ステーキ部，D：地方部，W：ワード部，
B：支部

後列左から1～10
前列左から11～14



- | 〈名 前〉 | 〈出身地〉 |
|------------|----------|
| 1. 神崎真由美 | 大阪北S／茨木W |
| 2. 倉館佳代子 | 町田S／藤沢W |
| 3. 松下 智 恵 | 福岡S／福岡W |
| 4. 高 橋 典 子 | 東京東S／小岩W |
| 5. 沼田さゆり | 盛岡D／盛岡B |
| 6. 棕沢かおり | 仙台S／上杉W |
| 7. 峰 尾 秋 代 | 町田S／湘南W |

- | 〈伝道地〉 |
|--------|
| 岡山伝道部 |
| 名古屋伝道部 |
| 神戸伝道部 |
| 名古屋伝道部 |
| 東京南伝道部 |
| 東京南伝道部 |
| 福岡伝道部 |

- | 〈名 前〉 | 〈出身地〉 | 〈伝道地〉 |
|------------------------|------------|--------|
| 8. 美戸 ^{ゆかり} 縁 | 東京北S／越谷W | 福岡伝道部 |
| 9. 待 木 朝 子 | 鹿児島D／都城B | 札幌伝道部 |
| 10. 竹内香奈子 | 札幌S／豊平W | 東京北伝道部 |
| 11. 大 谷 満 | 町田S／町田第2W | 大阪伝道部 |
| 12. 渡 邊 英 祐 | 東京西S／多摩W | 神戸伝道部 |
| 13. 沼 野 範 実 | 横浜S／横浜第2W | 仙台伝道部 |
| 14. 和 泉 太 良 | 大阪堺S／三国ヶ丘W | 札幌伝道部 |

渋谷ブックセンターからの お知らせ

「神権の回復」

フィルムストリップとカセットテープ
VVOF3889JA 20分 2,000円
教会の内外を問わず、神権と教会の回復
の真実性、その重大さを理解する助けと
なる。「最初の示現」の続編となる映画
をフィルムストリップにしたもの。

「メルケゼデク神権定員会」

フィルムストリップとカセットテープ
VVOF3492JA 16分 2,000円
定員会を良くしたいと願う会長が、定員
会会員の必要が満たされていないことに
気づき、事態の改善に乗り出す。



新役員の内命

2月21日から3月20日までに管理本部会
員記録統計課に通知のあった役員の内命
(敬称略)

☆三重地方部

新地方部長：作野研一(前任者：高橋昇)

☆鹿児島地方部

新地方部長：中村良昭(前任者：永友裕)

●仙台ステーキ部古川支部

新支部長：鈴木美津男(前任者：佐藤喜
久男)

●高松ステーキ部松山ワード部

新監督：中島純一(前任者：三樹敏憲)





サスケハナ川